

**平成 24 年度
フューチャースクール推進事業成果報告書
横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校**

**平成 25 年 3 月 29 日
国立大学法人横浜国立大学**

目 次

1. 調査研究の概要	1
(1) はじめに (実施目的)	1
(2) 全体スケジュール	2
(3) 学校概要	3
2. 調査研究体制	4
(1) ICT環境の配備状況	4
(2) ICT環境の運用体制	15
3. ICT支援員の状況	16
(1) ICT支援員数	16
(2) 取組概要	16
(3) 教員との連携	16
(4) 活動の記録	17
(5) 授業支援	17
(6) 運用作業	21
(7) ICT機器サポート	22
(8) 生徒向けレクチャ	23
(9) 研修内容	24
(10) 地域協議会	25
4. 地域協議会の運営状況	26
(1) 実施体制	26
(2) 第1回内容	27
(3) 第2回内容	28
(4) 第3回内容	29
(5) 第4回内容	30
5. ICT環境の利活用状況	32
(1) ICT機器の利活用状況	32
6. 実施計画で設定した実証テーマに対する分析・評価	34
(1) 実証テーマ①: ICT環境の利活用に際しての情報通信技術面等の課題の抽出・分析	34
(2) 実証テーマ②: ICT環境の導入・運用に係るコストや体制に関する課題の抽出・分析	39
(3) 実証テーマ③: ICT利活用方策の分析	41
(4) 実証テーマ④: 将来に向けたICT利活用推進方策の検討	48
(5) 実証テーマ⑤: 災害時におけるICT環境の利活用方策と課題の抽出・分析	51
(6) 実証テーマ⑥【独自1】: 中高一貫連携教育における、ICT利活用方策の分析	53
(7) 実証テーマ⑦【独自2】: ICT利活用を組み込んだ言語活動の質的な充実と「リテラシー」の育成	55
7. 今後の展望等	57
8. 平成24年度 報告対象期間中の日報	58

1. 調査研究の概要

(1) はじめに(実施目的)

世界最先端のブロードバンド環境が整備されているわが国であります、その利活用は決して十分に進んでいるとは言い難い状況であると認識しています。

特に、教育分野においては、総務省におけるフューチャースクール推進事業や文部科学省の実証事業、イギリス、韓国、シンガポールなどの海外事例から、ICTの利活用による高い教育効果が明らかになっていますが、ICTを利活用した教育の普及は今現在、推進過程にあり、残念ながら十分に進んでいないのが現状と考えます。そのため、初等中等教育におけるICTを利活用した教育の推進は、現在のわが国では急務になっていると認識しております。

政府においても、「新成長戦略」において、教育現場における情報通信技術の利活用によるサービスの質の改善を掲げられており、教育現場での情報通信技術の利活用は今後積極的に推進されていくと認識しています。また総務省におきましても、「2020年までのフューチャースクールの全国展開完了」を掲げられており、教育分野での「ICTを使った協働教育の推進」に、積極的に取り組まれていると認識しています。

一方、横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校(以下、本校)における教育の取り組みとしては、横浜国立大学教育人間科学部と連携をとりながら、最先端の教育理論に直結した独創的かつ先進的な教育を実践しています。日々の授業においても、時代をみすえた新しい研究テーマを取りあげ、県内各地から選りすぐられた経験豊かな教員陣を中心に、意欲的な授業実践を展開しています。その為、「研究推進校として教育上の多様な試みを行う」「大学の教育実習校として教育実習を行う」というような附属学校として、公立や私立の学校にない特性を持っております。

情報教育の推進としては、平成14年度の文部科学省「次世代ITを活用した未来型教育研究開発事業」実施校として指定を受けたことをスタートに、ネットワーク環境を各教科・授業において利用し、ICTを利活用した教育の普及を推進しているところであります。

これらの背景を踏まえ、平成23年度より開始いたしました本事業において、中学教育分野におけるさらに一步進んだ学校ICT化のモデルとして、クラウドの利用とタブレットPC、無線LANを配備した、生徒の情報活用能力の向上、教育の質の向上に資する環境を構築してまいりました。同時に、教科指導における情報通信技術の活用を推進し、情報通信技術を効果的に活用した、分かりやすく深まる授業を実現すべく、教員の得意・不得意によって利用方法を変える等、まずは教員が不安なく利用できる方法で授業を実施してまいりました。

平成24年度は、各教科の通常授業及び総合的な学習の時間での利用を推進し、本校としては、以下に重点をおいて事業を推進してまいりました。

- ・ICT利活用を組み込んだ言語活動の質的な充実と「リテラシー」の育成
- ・コミュニケーション促進のためのサブツールとしてのICT利活用のあり方

今後は、過去2カ年の経験を活かし、以下に重点をおいて事業を推進してまいります。

- ・ICT利活用の拡大・深化による言語活動の充実化と「リテラシー」と学力の向上
 - ・ICT支援員の役割の明確化、スキルの向上や適正人数、支援時間等の運用体制の確立
- また、継続してICTの利活用をサポートする支援員等を育成することで、教員のICT支援員からの自立を進めていきたいと考えております。

(2) 全体スケジュール

平成23年度と平成24年度のスケジュールは次のとおりである。

- ・ ICT構築、実証研究(平成23年度) : 平成24年1月～3月末
- ・ 実証研究(平成24年度) : 平成24年4月～平成25年3月末

■ICT構築、実証研究(平成23年度) : 平成24年1月～3月末

		1月				2月				3月			
		9日	16日	23日	30日	6日	13日	20日	27日	5日	12日	19日	26日
学校行事					▲ 2/2 ▲ 2/4 入学試験 合格発表			▲ 2/18 研究発表会			▲ 3/10 卒業式		
1	地域協議会			←準備→	▲ 1/30 第1回 (キックオフ、計画承認)			←準備→	▲ 3/1 第2回 (構築システム検証、 実証研究計画評価)			←準備→	▲ 3/21 第3回 (実証研究報告、 課題対策検討)
2	ICT環境構築	実施計画	受注業者環境にて作業 1クラス分の環境構築 サーバ構築 全クラス分の環境構築										教育クラウド 構築
			電源工事・LAN工事			▲ 2/4 機器搬入・設置							
					機器調整								
3	研修				▲ 2/1 ICT支援員赴任 初研修開始		▲ 2/16 ICT支援員向け研修 (授業支援システム)		▲ 3/7 教員向け研修 (IWB・実物投影機・授業支援システム)			▲ 3/22 教員向け研修 (教員プラットフォーム)	▲ 3/29 教員向け研修 (IWB・実物投影機・授業支援システム)
					▲ 2/8 教員・ICT支援員向け研修 (IWB・実物投影機研修)								
4	実証						報告書作成			▲ 2/29 文科省・総務省視察		報告書作成	
							授業準備						実証
							▲ 2/16、17 発表会リハーサル		▲ 3/2 3年生・導入教育・タブレットPC使用				▲ 3/6 1・2年生・導入教育・タブレットPC使用
							▲ 2/18 研究発表会						
		9日	16日	23日	30日	6日	13日	20日	27日	5日	12日	19日	26日
		1月				2月				3月			

■実証研究(平成24年度) : 平成24年4月～平成25年3月末

■平成24年度 年間スケジュール																																												
4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月											
上旬			中旬			下旬			上旬			中旬			下旬			上旬			中旬			下旬			上旬			中旬			下旬			上旬			中旬			下旬		
地域協議会						▲ 第1回 実証研究中間報告、課題対策検討									▲ 第2回 実証研究中間報告、課題対策検討									▲ 第3回 実証研究中間報告、課題対策検討									▲ 第4回 実証研究成果報告 次年度検討											
学校側 行事・作業			→ 生徒・教師アカウントの確定																					→ 公開授業						→ 公開授業 研究発表会			→ アンケート											
1	ICT環境関連	AD 登録									授業支援システム 改修・テスト・導入																																	
		セキュリティ ハッチ 適用												ホームページ クラウド化																														
2	研修	新人教員 研修																																										
		新入生 研修																																										
3	実証	実証研究																																										
4	報告書支援													中間報告書 作成																								成果報告書 作成						
		上旬			中旬			下旬			上旬			中旬			下旬			上旬			中旬			下旬			上旬			中旬			下旬			上旬			中旬			下旬
			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月								

(3) 学校概要

学校名	横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校(所在地:横浜市南区)		
教員数	24名		
全クラス数	9クラス		
全生徒数	405名		
学年概要	1年	3クラス	135名
	2年	3クラス	135名
	3年	3クラス	135名
校舎形状	鉄筋3F コの字型		

2. 調査研究体制

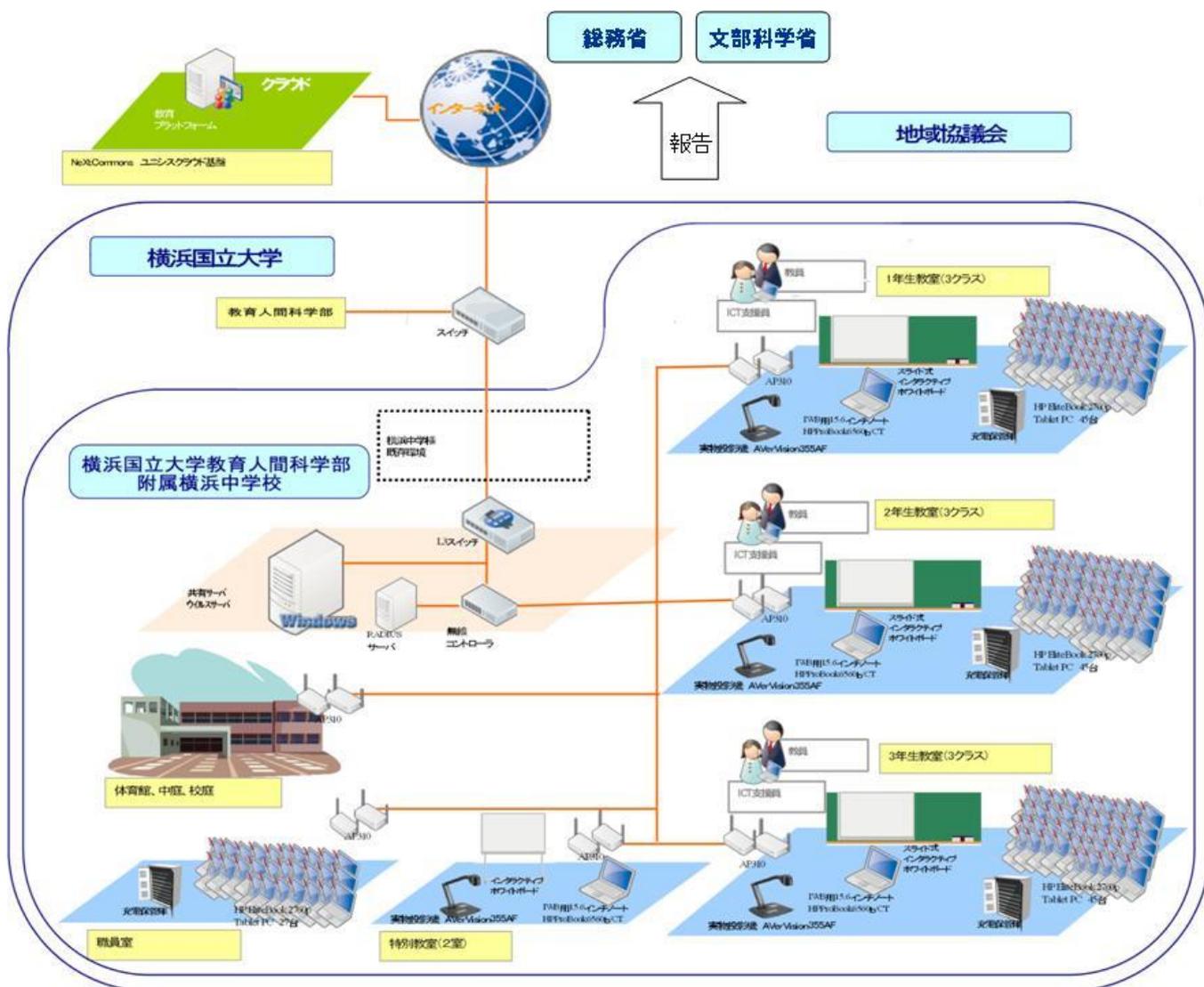
(1) ICT環境の配備状況

生徒の学力向上、情報活用能力の向上、教育の質の向上に資する環境として、本校にインタラクティブ・ホワイト・ボード(以下、IWB)、タブレットPC、無線LAN環境を構築し、学校現場における情報通信技術面等を中心とした課題の抽出・分析に取り組みます。

課題の抽出・分析は、実証テーマに沿って行い、有識者を含む地域協議会において熟議を重ねた上で、結果として取りまとめます。総務省が別に設置する有識者による連絡協議会にその実証結果を報告することで、ガイドライン(手引書)の作成に寄与することを本事業で目指します。

課題の抽出・分析にあたっては、本校が定めた実証テーマに加え、別の実証する「教育分野におけるICT利活用推進のための調査研究」の請負者から提案される評価指標・手法等に基づく調査も実施し、より有益な実証成果をあげていくことを目指します。

さらに、文部科学省が行う「学びのイノベーション事業」と十分な連携を図り、教育効果に係る実証も十分に進めていくことを目指します。



■ICT機器の品番、設置場所、数量

ICT機器選定のポイントは、次のとおりである。

- ・ 1クラス的人数が45名と多いことを考慮し、普通教室には2台のアクセスポイントを設置。
- ・ 体育や屋外観察、災害時の無線LAN利用を想定して、体育館、中庭等へアクセスポイントを設置。
- ・ 普通教室の空きスペースが少ないことを考慮し、既存の黒板の上にスライド式電子黒板(IWB)を設置。
- ・ 授業開始前の機器準備の手間を少なくするため、電子黒板用の常設PC(IWB用PC)および単体で使用できる実物投影機を設置。
- ・ PC等になれていない教員でもICT機器を使いこなせるように、単体で使用できる実物投影機を設置。
- ・ 普通教室には、教員用机がないので、IWB用PCと実物投影機を設置するキャスター付架台を配備。
- ・ 校内の共有サーバは、ユーザ管理及びグループポリシーでPCの制御をすることを前提に配備。
また、生徒間、教員間などの共有ドライブを運用することを前提に配備。

今年度運用したICT機器の設置場所、数量その他は次のとおりである。

PC					
No	種類	メーカー	品番・スペック	保管場所	数量
1	生徒用PC 	日本 HP	品番:A2N94PA#ABJ OS:Microsoft Windows®7 Professional 32 ビット メモリ:2GB HD:250GB キーボード:86キー(JIS 配列準拠) CPU:インテル®Core™ i5-2410M 液晶画面:12.1 型、縦横回転可能 専用スタイラスペン付き ポインティングタッチパッド内蔵 タッチパネルによる入力操作(指およびペン)	1A～3C の各 教室 充電 保管庫	414 台 (予備機 9 台含 む)
2	教員用PC 	日本 HP	品番:LV741PA#ABJ OS:Microsoft Windows®7 Professional 32 ビット メモリ:2GB HD:250GB キーボード:86キー(JIS 配列準拠) CPU:インテル® Core™ i5-2540M 液晶画面:12.1 型、縦横回転可能 専用スタイラスペン付き ポインティングタッチパッド内蔵 タッチパネルによる入力操作(指およびペン)	職員室 充電保管庫	27 台(予 備機3台 含む)
3	IWB用PC 	日本 HP	品番:QE540AV-ABEA OS:Microsoft Windows®7 Professional 32 ビット メモリ:2GB HD:250GB キーボード:86キー(JIS 配列準拠) CPU:インテル® Core™ i5-2540M 液晶画面:15 型 TFT SXGA ブルーレイ、DVD、CD 等対応スーパーマルチドライブ	1A～3C の各 教室、理科 室、図書室 設置 (セキュリティワイ ヤの施錠)	11 台

ネットワーク機器					
No	種類	メーカー	品番	設置場所等	数量
1	アクセスポイント 	メルシー・ネットワークス	AP310	1A～3C の各教室、理科室、図書室、体育館、校庭	51
2	Radius 装置 	日立電線ネットワークス	Account@Adapter	第一コンピュータ室 ラック	1
3	L3 スイッチ	日本 HP	J9472A	第一コンピュータ室 ラック	2
4	L2 スイッチ	日本 HP	J9021A	第一コンピュータ室 ラック	1
5	無線 LAN コントローラ	メルシー・ネットワークス	MC3200-50-JP	第一コンピュータ室 ラック	1

■ 無線 LAN のセキュリティについて

無線 LAN のセキュリティを確保するために、次の 3 点の対策を実施。

① MACアドレス認証

本校のICT環境外の機器に無線LANの回線を使用されないために、PCのMACアドレス(Media Access Control address)を、無線LANのシステムに登録。登録されているPCのみ、無線LANにアクセスすることを許可。

② 通信の暗号化

無線傍受・情報漏えいを防ぐために、PCとアクセスポイント間の通信を暗号化。

③ SSIDの隠蔽化

PCが経由するアクセスポイントの識別子(SSID・・・Service Set Identifier)を、非公開設定にすることにより、アクセスポイントの存在を隠蔽。

サーバ機器					
No	種類	メーカー	品番	設置場所等	数量
1	共通サーバ 	日本 HP	品番:ML350 G6 Xeon OS:Windows2008R2 メモリ:10G HD:300G×4本によるRAID5 CPU:Xeon E5606 2.13GHz バックアップ用 HD: 1TB×1本 モニタ:17 型 TFT SXGA キーボード:日本語 109 キー (JIS 配列準拠) DVD、CD 等対応スーパーマルチドライブ	第一コンピュータ室 ラック ・ActiveDirectory による ユーザ管理 ・グループポリシーによる PC管理 ・トレンドマイクロ ウィルス スバスターコーポレーション エディションによるウイルス 管理 ・トレンドマイクロ InterScanWebManager に よる Web フィルタリング管 理	1

■サーバ機能

① ActiveDirectory によるユーザ管理

Windows OS の機能である ActiveDirectory により、一元的なユーザ ID・パスワード管理を実施。

生徒、教員、ICT支援員の各ユーザ ID を権限グループに分け、管理。

② グループポリシーによるPC/ユーザ管理

各ユーザ ID に応じて、PC設定や操作に関する規制を適用。

生徒、教員、ICT支援員の各ユーザ ID に対し 3 つのグループに分け、各グループに動作環境(ポリシー)を適用。

③ トレンドマイクロ ウィルスバスターコーポレーションエディションによるウイルス対策管理

各PCに対して統一的なウイルス対策環境を提供するために、共通サーバにて一元管理を実施。

④ トレンドマイクロ InterScanWebManager による Web フィルタリング管理

ユーザ ID によって、Web の各サイトの閲覧の可・不可の規制を実施。

電子黒板、実物投影機、充電保管庫、架台					
No	種類	メーカー	品番	設置場所	数量
1	電子黒板(スライド型)	日立ソリューションズ	SB-FXT77RL	1A～3C の各教室	9
2	電子黒板(据置型)	日立ソリューションズ	SB-FXT77PJ-2	理科室、図書室	2
3	実物投影機	アバー・インフォメーション	AV-355AF	1A～3C の各教室、理科室、図書室	11
4	充電保管庫(30台用)	アクティブ	TRP-AC30N	1A～3C の各教室、職員室	10
5	充電保管庫(20台用)	アクティブ	TRP-AC20N	1A～3C の各教室	9
6	架台	サンワサプライ	PR-SG1	1A～3C の各教室、理科室、図書室	11

■ 授業支援システム

教室において教員と生徒および生徒間のグループ学習を支援するために、授業支援システム(InterCLASS)を整備した。

教員は、IWB用PCまたは教員用PCより、授業支援システムを使用して、生徒及びグループの学習状況の把握や、生徒個人の画面やグループでの作成物を各生徒用PCへ配信して共有することができる。

教員への研修を行い、英語授業での課題の一斉配信や、国語授業での習字の動画サイトの一斉起動などに使用されている。

授業支援システムの機能一覧(主な機能)

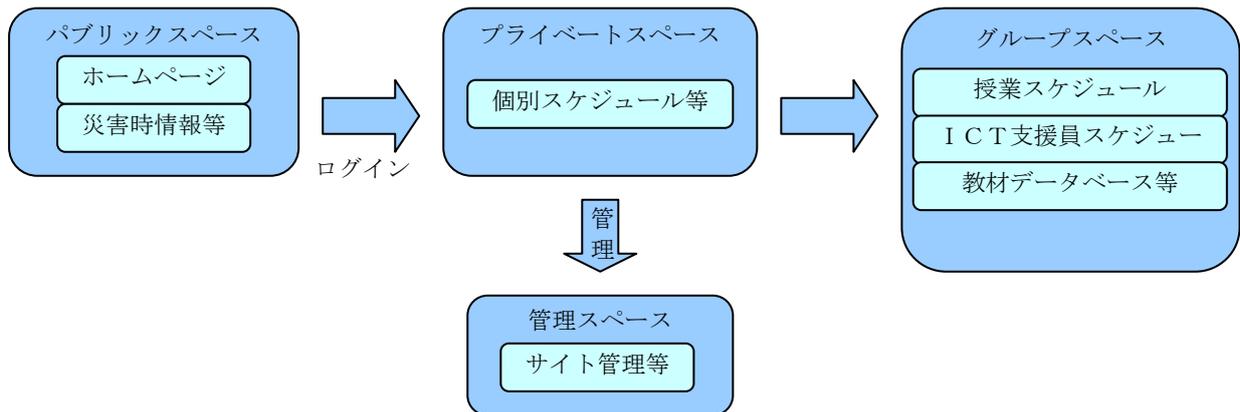
機能名	機能概要
ファイル配布・回収	教員用PC及びIWB用PCより生徒用PCに対して一斉に教材等のファイルを配布することができる。配布したファイルを回収し、生徒用PCから削除することができる。回収ファイルを出席番号でソートができる。
PCの状況確認	教員用PCまたはIWB用PCより授業中の生徒の画面を確認することができる。表示方法は、45台すべて、4分割、9分割、16分割、巡回表示から選択できる。
生徒のグループ分け	生徒用PCを協働学習にあわせてグループ化することができる。
PCの操作制御	生徒用PCの電源 OFF、操作ロック、Webの閲覧禁止等の一斉、個別の制御ができる。
画像転送	各生徒用PCに対して教員画面や生徒の画面を転送することができる。
ソフト起動	各生徒用PCの Office ソフトなどを教員PCまたはIWB用PCより起動することができる。
デジタルもぞうし	グループでデジタルもぞうしを共有し、グループの生徒用PCより書き込むことができる。どの生徒が書込んだ内容なのかがわかるようになっている。
生徒からの質問/応答	生徒用PCより教員へ質問メッセージを送付でき、教員はそのメッセージに応答できる。
(以下は平成24年度追加機能)	
チャット機能	グループ内の複数人で文字入力の会話、また発言内容をファイル保存することができる。
一斉起動/配布操作	配布したいファイルやフォルダ、一斉に起動したいプログラムの起動ショートカットやWebサイトのファビコンを、クラスエリアにドラッグ&ドロップするだけで、配布・一斉起動ができる。
デジタルもぞうし強化	各グループのもぞうしのサムネイル表示を可能とする。デスクトップアイコンから個別起動ができる。

■ 協働教育プラットフォーム

協働教育プラットフォームは、U-Cloud®(注 1)上で運営される SaaS 型サービス(注 2)の NeXtCommons(注 3)を使用して平成 24 年 3 月中旬に構築した。

NeXtCommons で提供している学校・教育委員会向けに特化したパッケージ(学校パック)を使用することで、導入・運用の利便性を実現している。

NeXtCommons は、「パブリックスペース」、「プライベートスペース」「グループスペース」の3階層からなり、外部への情報発信や教員、生徒、保護者といった関係者間での円滑な情報共有を実現している。



- (注1) U-Cloud®(ユークラウド)は日本ユニシスグループが提供する”ICT サービス”の総称です。
 (注2) ネットワークを使用してソフトウェアを提供するサービスのこと。
 (注3) ユニアデックス株式会社が提供する SaaS 型情報共有基盤サービスです。

■ 協働教育プラットフォームの機能一覧

スペース区分	機能	内容
パブリックスペース (ログインアカウントは不要)	ホーム	新着情報 学校スケジュール 等
	授業日記	学年別授業の様子
	サイト情報	サイト案内 Q&A
	災害情報	災害時情報 安否確認(SSL サイト) 等
プライベートスペース (ログインアカウントが必要)	各アカウント別情報	スケジュール 教材管理
グループスペース (ログインアカウントが必要)	トップページ	新着情報 教職員／生徒向け情報配信
	教職員共有	情報配信 情報共有(フォルダ、ファイル保管) ICT支援員スケジュール
	授業	教科別 教材データベース 授業スケジュール 等
	1年・2年・3年	学年別・クラス別・科目別の情報配信
	情報共有	外部機関との情報共有
	教育実習生の部屋	連絡掲示板 相談掲示板 レポート 課題提出(フォルダ、ファイル保管)

現在、使用頻度が高いページは次のとおりである。

- ・ 学校スケジュール
- ・ 教職員の情報共有(フォルダ、ファイル保管)
- ・ ICT支援員スケジュール

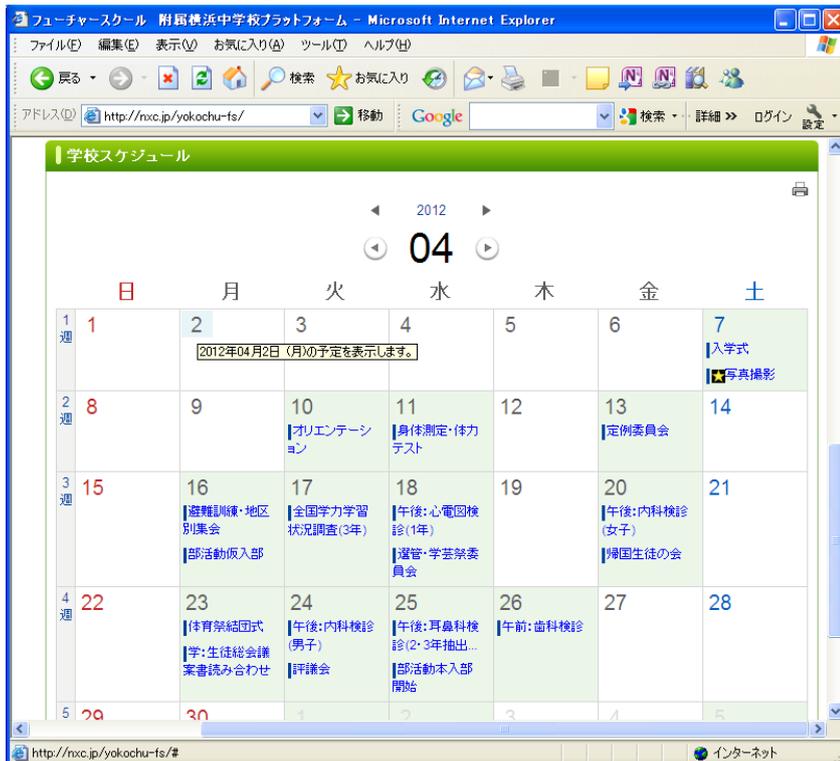
協働教育プラットフォームの画面は次のとおりである。

■トップ画面



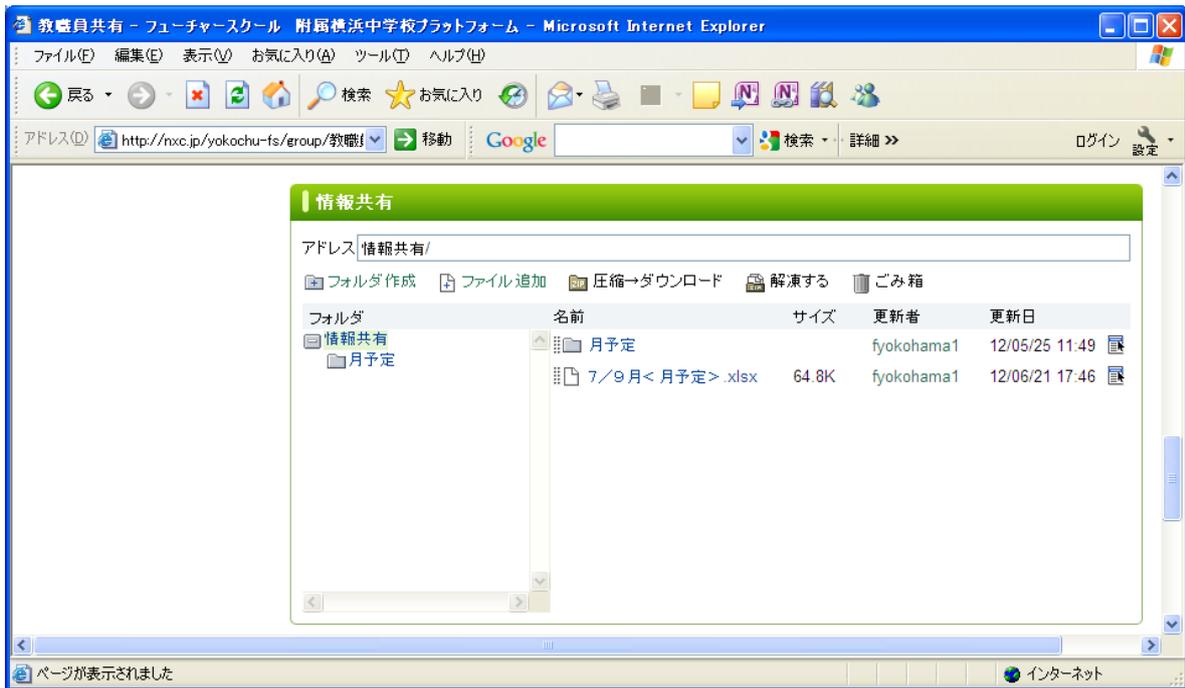
■学校スケジュール

主に教員が更新する。



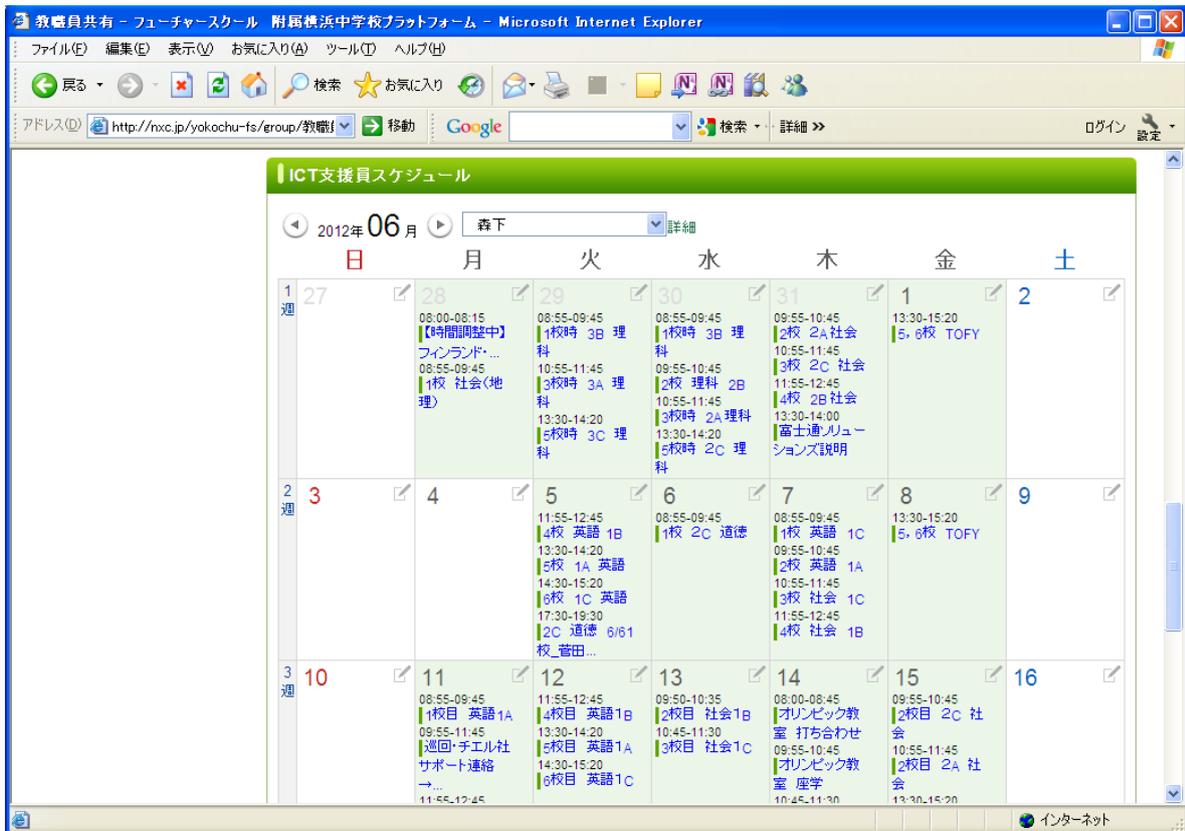
■教職員の情報共有(フォルダ、ファイル保管)

教員間、教員とICT支援員間・外部学校関係者間で情報共有を行う。



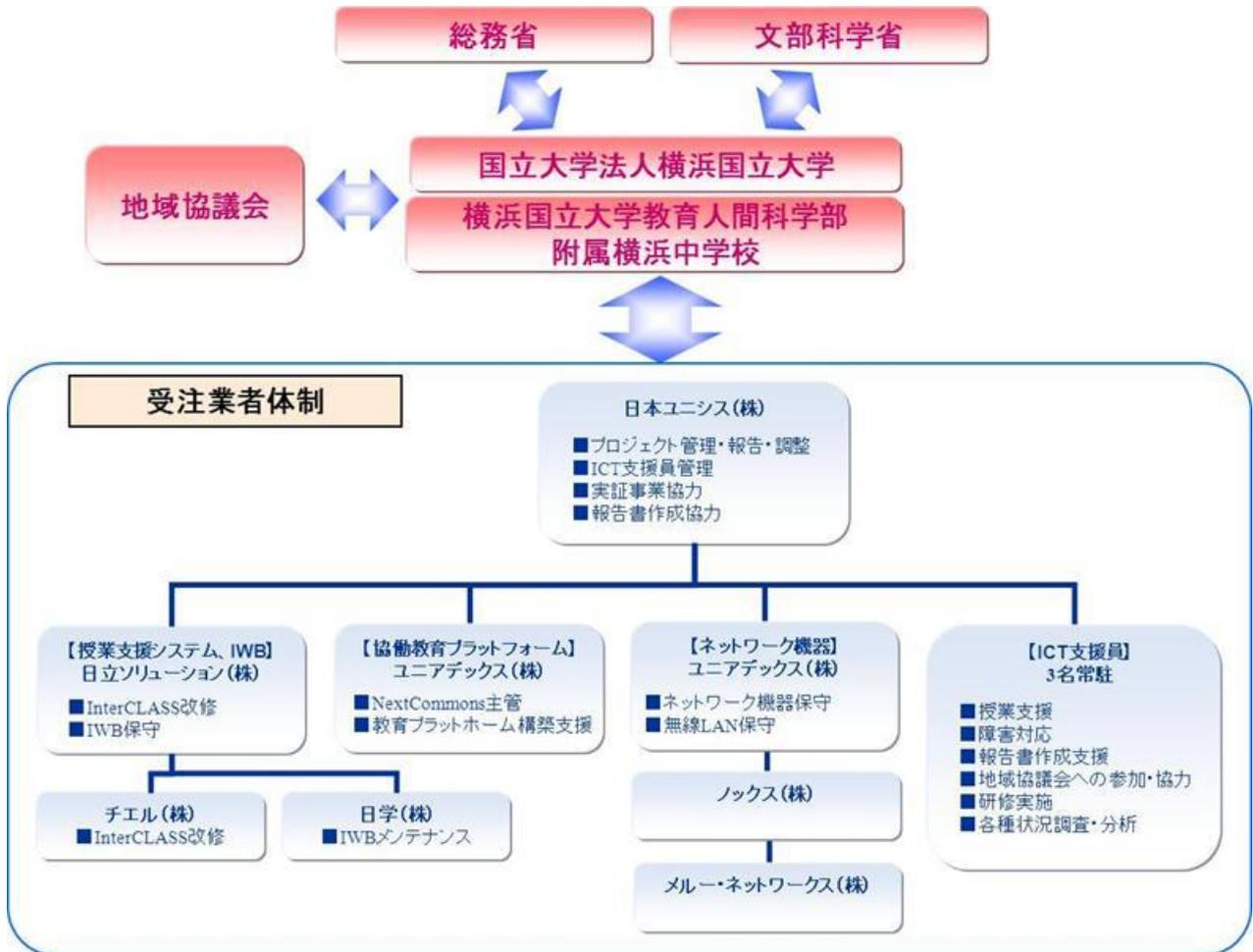
■ICT支援員スケジュール

ICT支援員が教員と授業支援スケジュールを調整し、その結果を登録する。



(2) ICT環境の運用体制

本実証研究の実施にあたり、体制は次のとおり。



3. ICT支援員の状況

(1) ICT支援員数

ICT支援員数	3名(うち1名をリーダー/責任者)
着任日	平成24年2月1日
勤務時間	平日8時30分～16時30分 ※学校行事、調整により残業対応

着任日以降、要員の変更はない。

(2) 取組概要

- ICT支援員の取組概要は、次のとおりである。

項目	各節の内容
教員との連携	支援作業に関する教員とICT支援員の連携方法・内容
活動の記録	ICT支援員が作成する授業記録、日報 等
授業支援	授業支援回数、準備内容、支援内容、事例 等
運用作業	ソフトウェアインストール、設定更新 等
ICT機器サポート	ICT環境の保守、復旧作業
生徒向けレクチャ	生徒に対するICT環境や使用方法に関するレクチャ
研修内容	ICT支援員が適宜受講する研修
地域協議会	ICT支援員が出席する地域協議会

- 生徒用PCに故障や不具合が生じた際の対応、生徒用PCのIDの管理・更新、教員作成の資料の整理・取りまとめなど、ICT支援員がいなければ学校の管理層や情報機器担当教員などの業務に付加されると予想される業務の整理等にもあたっている。

(3) 教員との連携

- 授業支援が必要な場合は、各教員が電話・口頭・メールなどでICT支援員に要請している。
- ICT支援員により、協働教育プラットフォーム(クラウド)上にICT支援員の授業支援スケジュールを登録し、教員、ICT運用保守業者と共有している。
ICT支援員間で、授業支援と他作業(教員との事前打合せ・相談、記録作成、写真などの資料整理、障害対応など)との調整を行い、最終的な支援スケジュールを決めている。
- 授業内容に添って、教員と事前に授業や支援の内容、ICT使用方法などについて相談・確認を行っている。
- 教員向けレクチャは次のとおりである。

No	項目	日時	概要
1	新人教員向けレクチャ	5/7	授業支援システム(InterCLASS)・実物投影機・スターボードの使用法のレクチャ。
2	IWB用PCと教室内スピーカーの接続方法説明	11/1 他	各教員に対してレクチャを実施。

(4) 活動の記録

- ICT支援員により、次の記録を行っている。
 - 授業記録
授業の流れ・ICT支援員の支援内容を1回の授業支援につき原則1枚記録
 - 日報
授業支援、準備、打合せ、障害対応、研修、ICT環境更新作業など、日々の業務を一覧形式に記録
 - 障害一覧
ICT環境に関する問題が発生した場合の現象・復旧対応の内容を記録
- ICT支援員は、各種報告や記録に基づき、定期的にICT運用保守業者と相談し、状況や課題の共有・対応を行っている。

(5) 授業支援

平成24年4月～平成25年2月まで授業支援の回数、準備、内容については、次のとおり。

■授業支援回数

1時間の授業支援を1回とカウントした。

月	支援回数	1名の1日の平均支援回数	備考
4月	120	約 2.7	4/9 から1 学期開始
5月	133	約 2.1	
6月	180	約 2.9	
7月	94	約 2.2	7/21 から夏季休暇
8月	11	約 1.2	夏季休暇(3日間授業日)
9月	172	約 3.0	
10月	260	約 3.8	
11月	175	約 2.7	
12月	132	約 2.9	12/21 から冬季休暇
1月	57	約 1.1	1/7 まで冬季休暇
2月	70	約 2.3	(2/15 まで集計)

■授業支援準備

授業支援について、事前に教員と授業内容、進め方、ICT使用方法や支援タイミング、使用するソフトウェア、必要な準備などについて相談を行っている。

授業開始前にIWBおよびIWB用PCを起動し、準備している。教員の指示により、ファイル配置、SW起動なども事前に行う。

次は一部事例である。

- 平成24年12月の公開授業のため、教員・ICT支援員・ICT運用保守業者にて事前打合せを実施した。計9つの授業の指導案を元に、情報の共有を行った。3名のICT支援員が各々別々の授業の支援を行うよう、調整を行った。
- 平成25年2月の研究発表会のため、教員・ICT支援員・ICT運用保守業者にて事前打合せを実施した。

また、教員の依頼により、ICTに関する動作確認・テストを行っている。教員と協働して行う場合と、ICT支援員のみで確認し、結果を教員にお知らせする場合がある。

次は一部事例である。

- ・ OneNote使用による、配布した画像ファイルにタッチペンで回答を記述する作業の事前検証
- ・ ヘッドセット(ヘッドフォン、マイク)の準備・片付け
- ・ 教員作成のDVDの事前再生可否チェック
- ・ 授業支援システム(InterCLASS)のデジタルもぞうし使用による、グループ分け・付箋紙貼り付け・画像更新などの事前テスト
- ・ ICT支援員用PCを使用して、各種ソフトウェアのインストール、動作確認

■授業支援概要

- ・ 授業中、生徒がPCを使用する際は、見回りを実施し、適宜生徒からの質問に回答している。不具合時は復旧作業や予備PCの交換を実施している。
- ・ 授業中、教員の指示により、授業支援システム(InterCLASS)にて生徒へのファイル配布や生徒からのファイル回収を行う際は、IWB用PCにて操作・実施している。
- ・ 授業支援の際は、カメラにて写真を撮影している。学校からの要望に応じて、ビデオカメラにて動画を撮影している。
撮影した写真や動画は、定期的に整理し、教員からの要望に応じて提供している。
- ・ 教員からの要請により、1回の授業支援にて、複数のICT支援員が対応する場合がある。例えば、1名がビデオ・写真撮影、1名がIWB・IWB用PCの操作、1名が生徒間見回り・サポートを行うなどの場合である。
- ・ 総合的な学習の時間等、学年で一斉にICTを活用した授業を実施する場合、各学年に1名の支援員を配置している。

■授業支援事例

支援を行った授業の事例は次のとおりである。

No	教科	学年	概要
1	英語	1年	IWB、スピーカーから英語の歌を放送し、生徒が合唱した。 IWB、実物投影機を使用。
2		2年	各生徒が生徒用PCを使用し、テーマにそって説明資料を作成。 PowerPointを使用して絵を描いたり、インターネットから資料を集めて題材とした。
3		3年	各生徒が生徒用PCを使用し、インターネットで有名人の情報を収集した。その情報を元に、英語で有名人のスピーチを作成した。 説明時にIWBを使用。
4		3年	インターネットから演奏シーンの動画をIWBにて表示。また、歌をIWB、スピーカーから放送。
5	国語	1年	生徒用PCのカメラ機能を使用し、各生徒がプレゼンテーションの動画を録画。再生し、各自でチェックした。 説明時にIWBを使用。
6		1年	生徒が各班に分かれ、班ごとに生徒用PC1台を使用。グループごとに、テーマに則った討論の動画を撮影し、のちにその動画をグループで観覧し、反省点などを洗い出した。
7		1年	デジタル教科書をIWBへ表示し、書き込みながら教員が説明。また、インターネットで古典番組を放映し、生徒が視聴した。
8		3年	IWB、スピーカーから朗読を放送し、生徒が作品の続編を作成した。

No	教科	学年	概要
9	数学	1年	小テストを生徒用PCへ配布。各生徒が生徒用PCを使用し、小テストに回答を実施。各生徒用PCから、小テスト結果を回収。説明時にIWBを使用。配布・回収時にIWB用PCにて授業支援システムを使用。
10		2年	各生徒が生徒用PCを使用し、連立方程式のワークファイル作成作業を実施。説明時にIWBを使用。
11	理科	2年	各生徒が生徒用PCを使用し、グラフを作成。授業支援システムを使用して、各生徒のグラフをIWBへ表示させた。
12		2年	書画カメラでプリントをIWBへ映し、書き込みなどを加え教員が説明。その後、生徒が各生徒PCを使用し、インターネットの教材サイトを閲覧しながら、プリントに記載。
13		3年	実験の画像にペイントで書き込み、各生徒が生徒用PCへ保存。説明時にIWB、実物投影機を使用。
14		3年	各生徒が生徒用PCを使用し、テーマにそって天体観測ソフトウェアを使用して調査。天体の位置・見え方についてPowerPointにて資料作成。その後、生徒同士がPCを見せながら、お互い説明を実施。
15	社会	3年	各班でテーマを決め、生徒用PCを使用し、資料(パワーポイントファイル)を作成。
16		3年	各生徒が生徒用PCを使用し、インターネットにて国会議員の情報を収集、取りまとめた。説明時にIWBを使用。
17	美術	1年	各生徒が生徒用PCを使用し、動物のデッサンの元となる画像をインターネットで検索。デッサンをしやすい画像を1つのファイルにまとめた。
18		1年	各生徒が生徒用PCを使用し、紙粘土で作成した工作物の写真を撮影した。それを元に本の表紙を作成した。
19	家庭科	2年	各生徒が生徒用PCを使用し、各自の献立の情報をインターネットで検索した。説明時にIWBを使用。
20	体育	全年	生徒が各班に分かれ、班ごとに生徒用PC1台を校庭・体育館に持参した。柔道の技のかけ方、走り高跳び・幅跳びのフォームなどを対象に、生徒同士がPCのWebカメラで撮影を行った。撮影後、写真や動画などを生徒同士で確認・批評し合った。
21	学活	3年	生徒が各グループに分かれ、修学旅行のテーマを決めた。IWB、IWB用PC、および生徒用PCにて、授業支援システム(InterCLASS)のデジタルもぞうしを使用。
22		全年	ICT機器使用に関する、横浜国立大学 野中教授による生徒向けアンケートを実施。説明時にIWBを使用。生徒作業時に生徒用PCを使用。

No	教科	学年	概要
23	公開 授業	全年	<p>公開授業において、ICT支援員・ICT運用保守業者が授業支援を実施した。</p> <p>またICT運用保守業者にて、ICT機器の使用状況のビデオ撮影を3名で実施した。ビデオ画像は、ガイドライン作成業者である内田洋行に送付した。</p> <p>公開授業後の全体会にICT支援員・ICT運用保守業者が出席した。質疑応答の際、ICT支援活動に対する質問があったため、ICT支援員リーダーが回答した。</p>

(6) 運用作業

PCへのソフトウェアのインストール、セキュリティパッチ適用などの作業は次のとおりである。

No	項目	日時	概要
1	全PCのWindowsUpdate(セキュリティパッチ適用)作業	4/6~20	教員用・IWB用・生徒用の全PCに対して、共有サーバ上のパッチ一式を1台ずつ適用。
2	授業支援システム(InterCLASS)の座席表確認	4/9・10	新年度・クラス替えにあたり、1・2・3年生全教室の授業支援システムの座席表が現状と合致しているかの確認。
3	教員用PCへへー太郎のインストール	4/10	教員用PCへへー太郎をインストール。
4	教員用PCへATOKのインストール	4/10・11	教員用PCへATOKをインストール。
5	デジタル教材インストール	4/12・20	教員用・IWB用PCへ数学・英語・理科のデジタル教材をインストール。
6	音声波形編集ソフトのインストール	5/9	IWB用PCへ音声波形編集ソフト(SoundEngine)のインストール。
7	デジタル教科書 全生徒用PCへインストール・設定支援	6/5~6	デジタル教科書業者による作業の支援。各PCの使用方法やアカウントの提示などを実施。
8	教員用PCへビデオドライバのインストール	7/10	教員からの指示により、教員用PC1台へビデオドライバをインストール。
9	災害時のICT環境の利活用実験	8/29	災害時のICT環境の利活用における無線LAN開放の実証実験を実施。 スマートフォン、PCにて開放した無線LANへの接続・動作確認を実施。
10	授業支援システム(InterCLASS)の改修版導入を支援	10/3~5	授業支援システム(InterCLASS)開発業者のインストール作業を支援。
11	全PCのWindowsUpdate(セキュリティパッチ適用)作業	11/26~12/3	教員用・IWB用・生徒用の全PCに対して、共有サーバ上のパッチ一式を1台ずつ適用。(修理中PCは修理後随時実施)
12	タブレットPC教室外持出一覧の管理	11月~	タブレットPCを校庭や体育館に持ち出す際、生徒には一覧に記載するよう周知している。その一覧を元に有無確認を行っている。
13	Webフィルタリングのチューニング	随時	Webフィルタリングにより、生徒用IDでは閲覧できないページがある。(ブログ、政治テーマなど) それらのサイトを授業で使用するため、教員からの指示により、それらサイトの閲覧許可設定を行っている。

(7) ICT機器サポート

ICT支援員にて、ICT機器のサポートを行っている。主な事例は次のとおりである。

No	種別	分類	サポート内容
1	PC	準備・対応	授業支援の際は、生徒用の予備機PCを2台用意し、復旧不可の場合に予備機代替を行っている。その場で解決できない問題については、授業後にICT支援員はICT運用保守業者と連携し、問題解決を行っている。
2		ハードウェア (HW) 修理	HW修理が必要なPCについては、HW修理業者へ電話連絡し、修理票の起票、機器送付・受け取りの対応を行っている。
3		ソフトウェア (SW)	各SWの疑問点については、各SW運用保守業者に電話またはメールにて質問している。
4			生徒用PCのタッチパネルが動作しない現象が発生した。ICT運用保守業者がPC会社のホームページからタッチパネル・ドライバをダウンロードし、改めてインストールを行い、復旧させた。ICT運用保守業者作成の復旧手順書に則って、以後はICT支援員が対応している。
5		対応	体育など屋外でPCを使用する場合、砂ほこりがPCに悪影響を与える可能性があるため、使用後にエアダスター(スプレー)で各PCを清掃している。持ち出したPCの管理一覧を作成し、都度チェックしている。
6	充電保管庫	調査・対応	充電保管庫で充電ができない現象が発生した。ICT運用保守業者とともに、充電保管庫の電源ケーブルをチェックしたところ、抜けかかっていた。コンセントに差し込み、抜けないようにテープで補強を行った。
7	その他	対応	IWBとIWB用PCをHDMIケーブルで接続しているが、接続障害が発生した。(障害についてはIWB設置業者にて対応。) HDMIケーブル使用不可の場合、RGBケーブルにて代替対応を行った。

(8) 生徒向けレクチャ

No	項目	日時	概要
1	生徒総会用資料(PDF ファイル)の全生徒PCへの配布	4/23	授業支援システム(InterCLASS)を使用し、2年・3年生の生徒用PCへファイルを配布。 配布に失敗した場合は、共有サーバの共有フォルダ経由で配布。 後日、1年生の生徒用PCへも配布。
2	新入生向けタブレットPCの使用方法・ログオン方法レクチャ	4/26	1年生全クラスにて実施。 説明資料はICT支援員にて作成。
3	WEB カメラ・ソフトウェア(WebCam)の全生徒PCへの配布	4/27	授業支援システム(InterCLASS)を使用し、1年生の生徒用PCへファイルを配布。 配布に失敗した場合は、共有サーバの共有フォルダ経由で配布。
4	WEB カメラ・ソフトウェア(WebCam)のレクチャ	6/25	3年全クラスにて実施。 説明資料はICT支援員にて作成。
5	小テスト(OneNote ファイル)のファイル配布と回答方法のレクチャ	6/27	1年全クラスにて実施。
6	ICT機器使用に関する、横浜国立大学 野中教授による生徒向けアンケート方法レクチャ	7/11・ 18・20	野中教授作成によるインターネット上のアンケートの回答方法をレクチャ、および生徒の操作支援を実施。
7	授業支援システム(InterCLASS)のデジタルもぞうし使用方法のレクチャ	7/12	生徒が各グループに分かれ、修学旅行のテーマを決める授業のため。IWB、IWB用PC、および生徒用PCにて、レクチャ実施。
8	画像操作の説明	9/13 9/21	1・3年生対象に、画像の保存・切り貼り方法をIWBで説明。
9	朝日新聞デジタルの説明	9/28	1年生全クラスにて、ログイン方法、記事のスクラップ、キーワード検索をIWBで説明。
10	ソフト導入方法の説明	10/16	3年生全クラスにて、天体プラネタリウムソフトのインストール方法をIWBで説明。
11	ソフト導入方法の説明	10/25	1年生全クラスにて、数学ソフトのインストール方法をIWBで説明
12	Webカメラ手順書の作成・レクチャ	11/7	全学年対象に、生徒用PC付属のWebカメラの使用手順を説明。 説明資料はICT支援員にて作成。
13	タブレットPC教室外持出一覧の作成	11/21	教室外に持ち出した生徒用PCの管理一覧を作成・周知。
14	生徒用PCのローカルデータの整理	2/19 ・20	生徒用PCのローカルフォルダ(デスクトップなど)に保存されているデータを共有サーバの各生徒フォルダまたは各生徒のUSBメモリに退避させる。
15	プリンタドライバ・インストール	2/19 ・20	生徒用プリンタ設置に伴い、生徒用PCにプリンタドライバをインストールし、必要な設定を行わせる。

(9) 研修内容

ICT支援員のフォローアップ研修を継続して実施している。代表的なものは次のとおり。

No	項目	日時	概要
1	デジタル教科書研修	6/7	デジタル教科書業者が実施。 ・デジタル教科書の使用方法について
2	横浜国立大学 野中教授によるフォローア ップ研修	6/8	野中教授、ICT支援員3名、ICT運用保守業 者にて、会議形式で実施。 ・ICT支援員の作業状況について ・授業記録について
3	協働教育プラットフォーム (クラウド) 研修	6/20	ICT運用保守業者・協働教育プラットフォーム 管理業者が実施。教員向け集合研修に参加。 ・クラウド環境(NeXtCommons)にて、ページ、 ルーム、モジュールの作成方法 ・ユーザ作成、権限
4	デジタル教科書 研修	6/26	デジタル教科書業者が実施。教員向け集合 研修に参加。 ・デジタル教科書の使用方法(書き込み・デー タ保存方法など)
5	サイバーモラル研修	7/2	神奈川県警による教員・生徒向け研修に参加。
6	横浜国立大学 野中教授によるフォローア ップ研修	7/11	野中教授、ICT支援員3名、ICT運用保守業 者にて、会議形式で実施。 ・ICT支援員の作業状況について ・授業の写真・ビデオ記録について
7	FS実証校(本田小学校そ の他)のICT支援員の集合 研修・活動発表会	8/6・7	ICT支援員派遣業者が実施。東日本におけ るフューチャースクール実証校のICT支援員 の集合研修。 (活動発表の資料はICT支援員が作成。)
8	授業支援システム(InterC LASS)の改修内容研修	10/5	授業支援システム(InterCLASS)開発業者 が説明会を実施。新機能について実機を用 いて研修。
9	横浜国立大学 野中教授によるフォローア ップ研修	10/24	野中教授、ICT支援員3名、ICT運用保守業 者にて、会議形式で実施。 ・ICT支援員の授業支援状況を野中教授に 視察・写真撮影していただき、それを元に振 り返りを実施。
10	新一般公開用ホームペー ジ操作研修	12/3	クラウド環境主管業者が教員・ICT支援員向 け説明会を実施。旧ホームページからのデー タ移行結果、操作方法を研修。
11	その他自習	適宜	ICT支援員による自習・練習 ・図書室その他教室のICT機器を利用して、 機器操作の自習、各種ソフトウェアの稼動確 認。

(10) 地域協議会

地域協議会への参加は、次のとおりである。

No	概要	日時
1	第1回協議会へ参加	平成24年6月25日
2	第2回協議会へ参加	平成24年9月24日
3	第3回協議会へ参加	平成24年12月14日
4	第4回協議会へ参加予定	平成25年3月14日

- ・ 第2回協議会にて、平成24年8月に参加したFS実証校(本田小学校その他)のICT支援員の集合研修・活動発表会の報告を行った。

4. 地域協議会の運営状況

(1) 実施体制

地域協議会の実施体制は以下のとおりである。実施場所は全て横浜中学校である。

実施体制	
協議会	
名称	取組状況
附属横浜中学校 地域協議会	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目的: 本事業の内容に教員や有識者等の意向を反映し、また継続的な事業運営方策を検討することを目的とする。 ○ 設立年月日: 平成24年1月30日 ○ 活動: ICT関連機器・設備やICTシステムの仕様等の確認、ICT利活用事業の実施に必要な事項の協議、実証研究計画の調整および実証研究結果の報告・評価、課題対策検討、次年度以降の事業の運用・運営の在り方等に関する検討
運営体制(協議会の主な構成員)	
団体・氏名	役割
横浜国立大学教育人間科学部 附属横浜中学校 主幹教諭 鹿島 俊章 (プロジェクトリーダー)	本事業の進捗管理等の全体統括、総務省・文部科学省に向けての各種報告 モデル構築の成果の全国展開への協力、関係各会議への出席
横浜国立大学教育人間科学部 附属横浜中学校 校長 蝶間林 利男	事業の運用・運営の在り方等に関する検討
横浜国立大学教育人間科学部 附属横浜中学校 副校長 大音師 右至	事業の運用・運営の在り方等に関する検討・助言
横浜国立大学 教育人間科学部 附属教育デザインセンター センター長 高木 展郎	教員養成のモデルの提示、ICT利活用事業を効果的に推進するための教育法の提案(教員向け研修の実施を含む)
横浜国立大学 教育人間科学部 附属教育デザインセンター教授 野中 陽一	専門分野である教育工学に基づく実証研究計画への助言、実証研究結果の評価、課題対策検討

横浜国立大学教育人間科学部 附属横浜中学校 学校評議員 県立光陵高校校長 鈴木 俊裕	実証研究結果の評価、課題対策検討
横浜国立大学教育人間科学部 附属横浜中学校 学校評議員 PTA 会長 樋口 哲夫	実証研究結果の評価、課題対策検討
教員 井上 祐介 大窪 洋次郎 大内 広之	ICT利活用事業に関する具体的な検討(教案等)、実証研究計画の調整および実証研究結果の報告・評価、課題対策検討
横浜国立大学教育人間科学部 横浜附属学校第二係 菊地 清史	事業の運用・運営の在り方等に関する検討・助言
ICT支援員	授業中のICT機器の操作支援、ICT機器の利活用方法の提案、ICT機器を利活用する授業の指導案作成支援、デジタル教材の作成支援、ICT機器の保守・管理、各種ソフトウェアの導入・管理・設定、授業記録の作成、資料の管理
ICT運用保守業者 (日本ユニシス)	ICT関連機器・設備やICTシステムの構築に関するアドバイザー、ICT運用保守、各種報告、資料作成

(2) 第1回内容

開催日時 : 平成24年6月25日 14～16時

参加人数 : 16名

※ 総務省関東総合通信局情報通信部情報通信振興課より、以下 1 名の方にご参画頂きました。

・課長 山越 貴 様

1. 挨拶

- ・校長より、開会の挨拶。
- ・総務省課長より、挨拶と説明。所管課が変わったこと、23年度事業をまとめたガイドライン2012を発表したこと、事業仕訳(行政レビュー)について。

2. 報告等

①事業計画について

副校長より、資料2に基づき、FS推進事業の趣旨・研究課題及び学びのイノベーション事業の研究課題について説明があり、平成24年度の年間事業計画(学活、生徒総会、教育実習、行内研修、公開行事、避難訓練など)及び4月から6月までの実践研究について

報告があった。また教育実習生への活用についてのアンケート結果の報告もあった。

②ICT運用保守業者より

日本ユニシスのICT運用保守担当者より、資料に基づき、ICT環境についての作業報告と今後の予定、ICT環境の利活用状況と課題、ICT支援員の配置と取組状況などについて説明があった。

3. 意見交換

- ・デジタル教科書(特に生徒用)の使い勝手の検証データ蓄積・授業記録の蓄積をお願いしたい。(国・数・英)
- ・家庭内で、部屋にこもりPCや携帯電話を利用している子どもたちが増えている。教室内ではPCを使いながらも、上手にコミュニケーションをとり、PCの使い方や各教科の学びの向上につなげて欲しい。
- ・情報公開は、できるだけWeb等で公開をお願いしたい。特に公開研究授業、TOFY(総合的な学習の時間)や避難訓練(防災対策)での活用などのアピールをお願いしたい。

4. 今後の事業展開に関する助言

野中教授より、次の助言があった。

- ・調べ学習中、フィルタリングによって活動がしばしば中断している。少し緩めて、総合の時間等での個人のページやブログのページへのアクセスを許可してはどうか。
- ・生徒の端末画面をIWBに表示する等の授業支援システム(InterCLASS)の機能を使って、改善点の検証をお願いしたい。
- ・無線LANの繋がりが悪いところがあるので、検証してほしい。
- ・実習生への活用、データ収集については、これからもお願いしたい。
- ・授業記録は、全指導時間中の1人1台端末使用時間、IWP利用時間、実物投影機利用時間などをパーセントで記録してほしい。
- ・他のフューチャースクール事業実証校との交流なども行ってほしい。

(3) 第2回内容

開催日時 : 平成24年9月24日 14～16時

参加人数 : 10名

1. 挨拶

- ・校長より、開会の挨拶。

2. 報告

①現状報告

ア 主幹教諭から、資料に基づき、フューチャースクール推進事業および学びのイノベーション事業の授業における活用状況(3年美術、2年理科、1年国語、2年家庭科、2年数学)および教育実習生の活用状況(家庭科、2年数学、2年地理、1年英語)や教育実習生の感想について報告があった。

引き続き、デジタル教科書(2年数学)の利用と感想および今後の使用単元予定について報告があった。

イ 英語教諭【中間成果報告会、8月22日、於お茶の水女子大学】および数学教諭【教育システム情報学会、8月22日、於千葉工業大学】から、各成果報告会等での本校の取組み状況の発表について報告があった。

②ICT運用保守業者より

日本ユニシスのICT運用保守担当者より、資料に基づき、ICT環境についての作業報告と今後の予定、ICT環境の利活用状況(避難訓練等)と課題、ICT支援員の配置と取組

状況などについて説明があった。
次にICT支援員リーダーから、葛飾区立本田小学校で行われたICT支援員の研修会(8月6、7日)についての報告があった。

3. 意見交換

- ・ 野中教授からアンケートについての中間報告があった。内容等を見直しているとのこと。今後も中学校にてアンケートを実施する予定。
- ・ ホームページはCMS(コンテンツ管理システム)のため、更新が容易と思われる。各教科の部屋などを作り積極的に活用してほしい。
- ・ 英語では、コミュニケーション能力を伸ばす方法としてスカイプを活用して外国との交流も考えられるが、時差の問題等がある。
- ・ 校内限りで、SNSなどを活用しチャットなどで文字によるコミュニケーション利用などの方法も考えられる。
- ・ 数学では、統計の問題など单元的に利用に向いているものもあるが、証明とか大量に書かなければいけないものには難しい。
- ・ デジタル教科書については、「教科書で教える」のではなく「教科書を教えている」授業になるので、学校により使える所とそうでない所があるのではないかと。
- ・ 英語では、CD代わりに使う方法もある。
- ・ 小学校の算数の教科書では、付箋モードを使って、問題→解き方→回答と進む方法を取っているものもある。
- ・ 配信機能により資料配付などを行った際、届かない時があるので、共有HDに入れておく方法も取ったりしている。これについては、再現が難しいので小テストを行う際に、ICT運用保守業者にも立ち会ってもらい検証してみることも必要ではないかと。
- ・ 教育実習生については、ICTについては使いこなしているようだが、大学に電子黒板などの設備がないので、いくつかの講義室に整備していくことを検討している。

4. 今後の事業展開に関する助言

野中教授より、次の助言があった。

- ・ デジタル教科書については、更に使ってみて検証を行ってほしい。
- ・ 教育実習校で、このような環境を整えてくれているので、大学でも環境を整え学生にも使えるようにしたいが、大学のカリキュラムにないもので、良い事例になると思う。
- ・ 生徒のスキルを上げれば多少の障害も乗り越えられるのではないかとと思われるので、後半はグループでの活用にアナログとデジタルの良い面を利用するなどして欲しい。
- ・ 公開授業については、12月に予定しているが、どの教科にするかなど詳細は未定である。先着150名位としてWEBによる申込みで行いたい。
- ・ 生徒のスキルをあげるとは、タイピング、インターネット、PPTなどが考えられるが、ともかく機会を与えることが必要であると思われる。
- ・ 生徒が使えるプリンタがあると便利なので、ネットワークで使えるプリンタを整備することを検討する。

(4) 第3回内容

開催日時 : 平成24年12月14日 14~16時

参加人数 : 10名

1. 挨拶

- ・ 校長より、開会の挨拶。

2. 報告

①現状報告

主幹教諭から、資料に基づき、12月19日に実施する公開授業の申込み状況及び当日のFS推進事業及び学びのイノベーション事業の説明資料(当日説明は、インフラ、デジタル教科書、各教科実践報告)及び小学館ムックへの投稿原稿抜粋の配付について報告及び説明があった。

②ICT運用保守業者より

日本ユニシスのICT運用保守担当者より、資料に基づき、ICT環境についての作業報告、ICT環境の利活用状況と障害対応、ICT支援員の作業状況、年間スケジュールなどについて説明があった。

3. 意見交換

- ・公開授業における説明資料に次のものを入れたらどうかとの意見があった。
 - ・小学館ムックへの投稿抜粋
 - ・使用している主なソフトウェア

4. 今後の事業展開に関する助言

- ・野中教授から次の助言があった。
 - ・デジタルもぞうしは来年度の検討課題
 - ・文科省視察時、生徒も教員もかなり使い込んでいる印象を受けた
 - ・チャットはコミュニケーションしなくても、言いつばなしでも可能
 - ・情報活用能力のアンケートについて内容等を見直しており、1月初旬に中学校にて実施する予定。

(5) 第4回内容

開催日時 : 平成25年3月14日 14~16時

参加人数 : 8名

1. 挨拶

- ・校長より、開会の挨拶。

2. 報告

①現状報告

大音師副校長から、資料に基づき、12月19日に実施した公開授業の参加者アンケート集約、今年度の成果及び今後の課題等について報告及び説明があった。

②教育 ICT 活用実践発表会報告

鈴木県立光陵高校校長から、資料に基づき、3月13日文科省主催で行われた教育 ICT 活用実践発表会について、資料に基づき報告があった。

②ICT運用保守業者より

日本ユニシスのICT運用保守担当者より、資料に基づき、ICT環境についての作業報告、ICT環境の利活用状況と障害対応、ICT支援員の作業状況、今後の予定、年間スケジュールなどについて説明があった。

3. 意見交換

- ・後年度経費負担の話は別として、ユニシスの25年度年間スケジュールに教員向け運用引継研修が挙げられているが、サーバの管理などは教員の業務としては引き継がない方がよい。
- ・後年度経費負担については、ユニシスと大学で十分相談しないとイケないし、5年間の事業が終了した後のことも検討しないとイケないのではないかと。

- ・26年度以降の ICT 支援員の配置・業務について十分検討の余地がある。
- ・先行している小学校でも経費が自治体負担となり困っている状況であるようだが、その情報も入手する必要がある。
- ・アンケートに新しい感じではないとの意見があったが、本校はまさしくこれを狙うべきで、使える所で適切に使って授業が良くなっているのを見せる方が現実的である。
- ・2月の研究発表会の際は上記のことを見せ、他の公開授業の際には ICT に特化した報告をしたらどうか。例えば今後の課題に書かれているチャット機能やデジタルもぞうし、ネットワークを使った協働的なものなどを使ってのチャレンジを見せればよいのではないか。

4. 今後の事業展開に関する助言

- ・野中教授から次の助言があった。
 - ・中学の取り組みを広く外向けに発信する必要がある。
 - ・公開授業について、システムの話はユニシスにしてもらったり、他校の実践報告も入れたりしたらどうか。また回数を増やす、参加人数を増やす等の工夫はできないか。

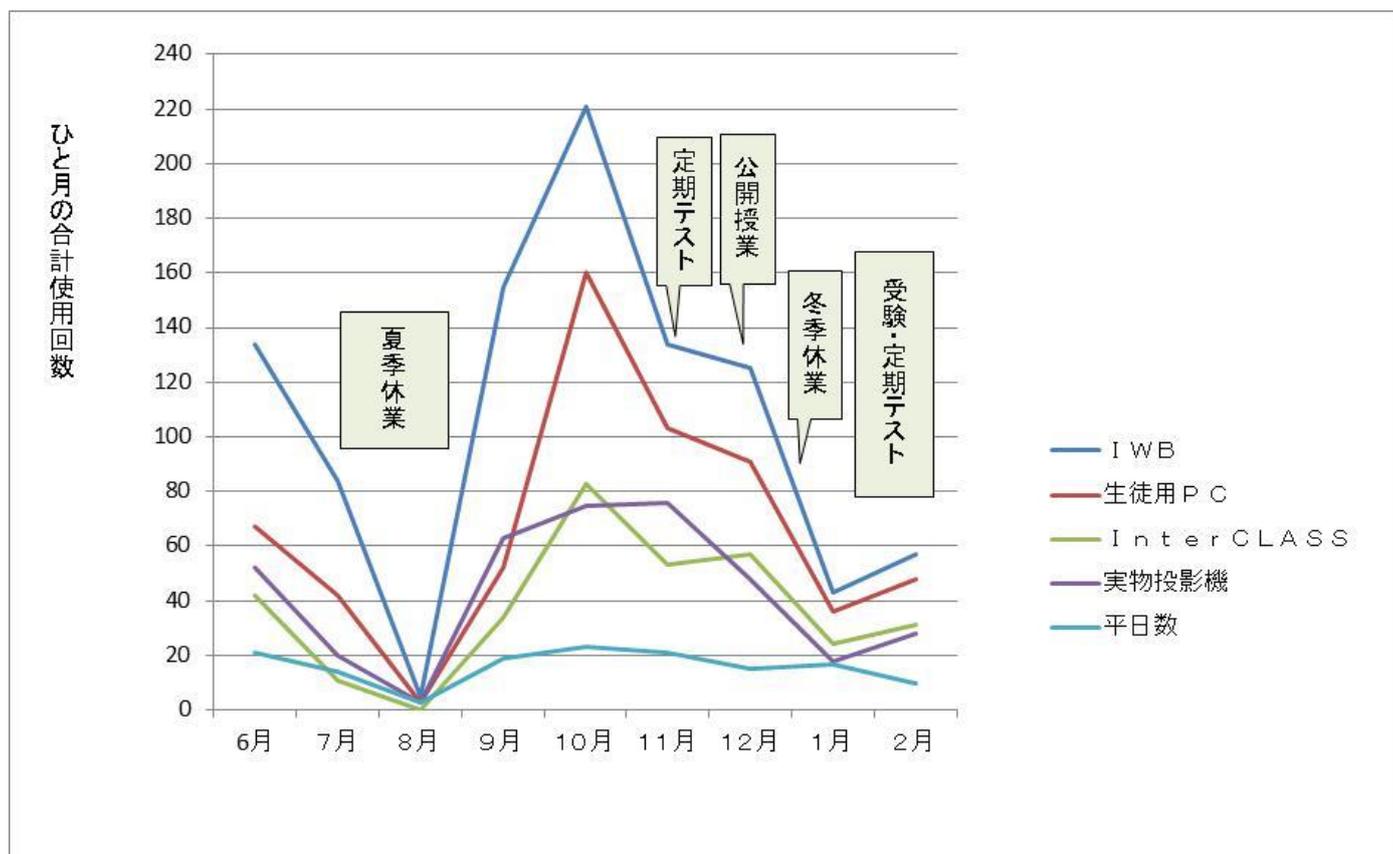
5. ICT環境の利活用状況

(1) ICT機器の利活用状況

ICT支援員の日報にて、各ICT機器と授業支援システム(InterCLASS)の使用回数の記載を平成24年6月から開始した。平成24年6月から平成25年2月までの使用回数は次のとおりである。

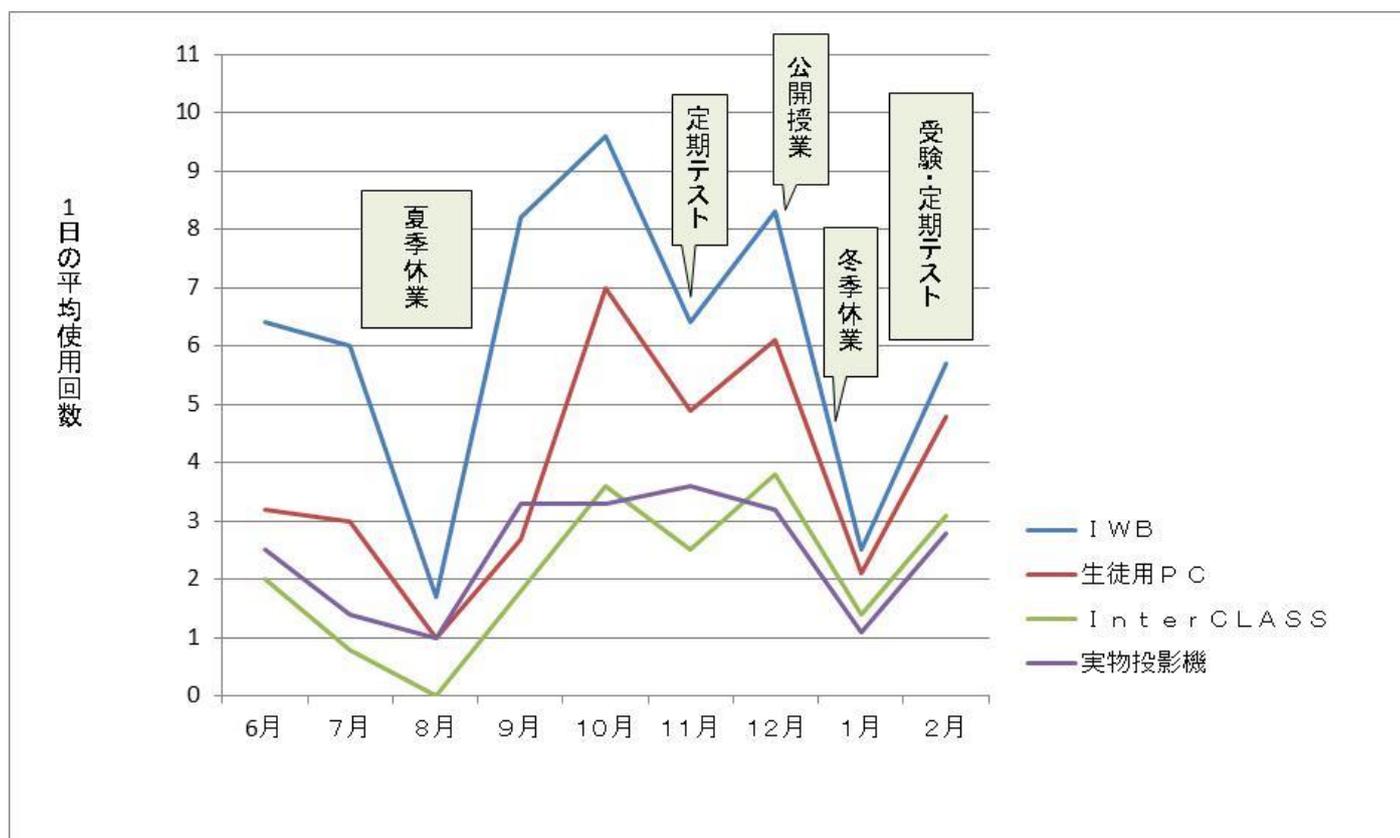
■ 月ごとの合計使用回数

月	IWB	生徒用PC	InterCLASS	実物投影機	平日数
6月	134	67	42	52	21日
7月	84	42	11	20	14日
8月	5	3	0	3	3日
9月	155	52	34	63	19日
10月	221	160	83	75	23日
11月	134	103	53	76	21日
12月	125	91	57	48	15日
1月	43	36	24	18	17日
2月	57	48	31	28	10日(2月15日まで)



■ 月ごとの1日の平均使用回数

月	IWB	生徒用PC	InterCLASS	実物投影機
6月	6.4	3.2	2.0	2.5
7月	6.0	3.0	0.8	1.4
8月	1.7	1.0	0.0	1.0
9月	8.2	2.7	1.8	3.3
10月	9.6	7.0	3.6	3.3
11月	6.4	4.9	2.5	3.6
12月	8.3	6.1	3.8	3.2
1月	2.5	2.1	1.4	1.1
2月	5.7	4.8	3.1	2.8



【集計結果】

- ・ 行事の有無によって差はあるが、下期になるに従い、使用回数は増加したと考えられる。これは、教員がICT機器に慣れ、操作スキルがアップしたためと考えられる。
- ・ 9月は教育実習期間であり、積極的に教育実習生にICT機器を使用させ、授業を行わせた。
- ・ 10月は教育実習期間が終わり、常勤教員の通常体制となったため、使用回数は増加した。
- ・ 定期テストがあり授業数が減少する場合、使用回数も減少している。
- ・ 平成25年1月・2月は3年生が受験のため欠席することが多いため、減少している。

ICT支援員が支援に入らない授業におけるICT利活用状況を集計するために、各教員にて授業記録に各ICT機器の使用時間を記載し、ICT支援員にて集計を行っている。

6. 実施計画で設定した実証テーマに対する分析・評価

実施計画にて設定した各実証テーマに対する評価については、予め想定した課題もしくは実際の作業を行う中で抽出した課題をもとに分析、評価を実施した。

(1) 実証テーマ①:ICT環境の利活用に際しての情報通信技術面等の課題の抽出・分析

※実証テーマ①(旧):ICT環境の構築に際しての課題の抽出・分析は本節に含む。

<項目1>

【課題内容】

- 各普通教室の電子黒板(以下、IWB)は、レール取り付けによるスライド型である。使用回数の増加によって、レール部・稼働部の状態に緩みや歪みが発生していないか確認する必要がある。

【取組内容】

- 設置からほぼ半年後(平成24年7月)に、IWBの設置状態を全9教室において確認した。4教室において、5mm以上の水平方向のズレを検知した。(レールの湾曲ではない。)
平成24年8月下旬にズレを補正する作業を実施した。
- 具体的な補正作業は次のとおり。

No.	教室	修理種別
1	1B、3A	上レールの水平を修正
2	2A、3B	下レールの歪みを修正

<作業工程>

(1)上レールの水平を修正

①修正前のレールの水平をレーザーにて実測。



②修正後



(2)下レールの歪みを修正

①レール前に糸を張り、歪みを確認。



②歪み補正材の挿入結果。



- ・平成25年2月に再度IWB設置業者によって、定期点検を行った。結果については取りまとめ中である。

【結果】

- ・レール取り付けによるスライド型のIWBは、定期的に設置状態をチェックする必要があると確認できた。
- ・IWB設置業者は年に1回チェックすることを推奨している。

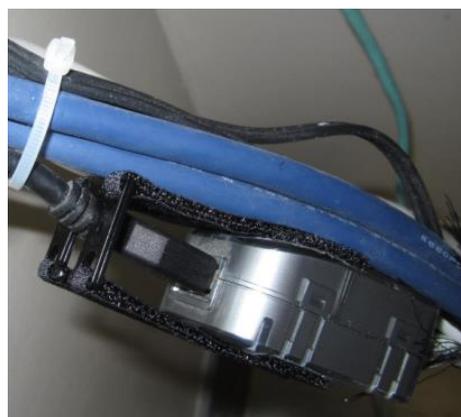
<項目2>

【課題内容】

- ・スライド型IWBとIWB用PCの接続において、USBエクステンダーとLANケーブルで延長し、12mの長さを実現している。しかし、USBには外れないようにする爪がないため、IWBやIWB用PCの架台を移動すると、USBエクステンダーからUSBケーブルが抜けてしまう場合がある。

【取組内容】

- ・平成24年9月初めに、USBケーブルを抜けにくくするUSBタフロック・シールにて、外れないように固定した。(以下、写真)



【結果】

- ・USBとUSBエクステンダーの接続は、USBタフロック・シールにより強固に固定されており、以降外れてはいない。ただし念のため、USBの接続状態については、ICT支援員が定期的に確認している。

<項目3>

【課題内容】

- ・授業実施に必要なネットワークの通信レベルの確保が必要となる。

【取組内容】

- ・多数の生徒用PCが使用される場合、ICT運用保守業者・無線業者によるネットワ

- ・ ーク状況の監視・見回りを行い、状況の確認・不具合時の対応を実施した。
- ・ 無線LANドライバの最新化が必要か、定期的に確認した。
- ・ 統合的な学習として、各生徒が教室を移動して授業を行う場合がある。そのため、無線LANにローミングの設定を行っていた。
平成24年12月に1・2年生のほぼ全員がPCを使用して統合的な学習を行った。各生徒がテーマに応じて、教室を移動した。(国語のテーマの生徒は国語科室、美術のテーマの生徒は美術室など。)
その際、教室によっては5名程度が無線LANに接続できなくなった。
無線業者・ICT運用保守業者が現地調査を行い、原因追求・対応を行った。

【結果】

- ・ 無線LANドライバの最新化を定期的に確認した結果、無線LANメーカーより、障害対応を含んだIWB用PCの無線ドライバと、無線コントローラのソフトウェアがリリースされていたため、平成24年9月初めにIWB用PCの無線ドライバと無線コントローラのソフトウェアを最新版にバージョンアップした。
無線LANドライバの最新バージョンにおける修正内容は次のとおり。
 - ・ 無線ローカル・エリア・ネットワーク(WLAN)が突然にインターネットから切断されることがある問題についての対応
- 無線コントローラ最新バージョンにおける修正内容は次のとおり。
 - ・ 誤った信号強度により、端末がハンドオフを生じる問題の対応
 - ・ 大量のデータを流した際に、無応答になる場合がある問題の対応
 - ・ APのIDが重複し同じMACアドレスとして認識されてしまう問題の対応
 - ・ 無線のチップに起因するクラッシュの問題の対応
- ・ 平成24年12月の統合的な学習の際の不具合は、PCやアクセスポイントを同時に多数使用したため、一部のアクセスポイントにて接続PC数の超過となったことが原因であった。アクセスポイントの設定変更を行い、復旧した。現在、状況を注視している。

<項目4>

【課題内容】

- ・ 授業運営に必要となるICT機器の可用性・安全性を維持する必要がある。

【取組内容】

- ・ 無線LAN接続に不具合が発生した場合に備え、アクセスポイントのランプの仕様をICT支援員へ周知した。
平成24年6月にアクセスポイント2台の故障が発生したため、復旧作業を行った。
- ・ IWB、IWB用PC、実物投影機の電源が停止されていない、充電保管庫が施錠されていない、などの状況が検知された。(最終使用者の片付け漏れ・人的ミスによるものと想定。)
そのため、機器の電源停止、保管庫の施錠、加えてアクセスポイントのランプ状態について、ICT支援員により、放課後に日次チェックを実施することとした。
- ・ 無線コントローラの障害によるシステム接続不可を防ぐために、システム構築時に無線コントローラを冗長化した。
- ・ 無線LAN状況を確認するために、定期的にネットワーク・ログの確認を行った。
平成24年7月のネットワーク・ログ確認時に、無線コントローラ2台のうち1台の待機系機器にて不具合を検知した。
運用系・待機系機器ともに再起動を行い、復旧させた。
ソフトウェア的な問題が考えられるため、無線コントローラ・ソフトウェアを最新版にバージョンアップした。

【結果】

- ・ 平成24年6月のアクセスポイント2台の故障は、アクセスポイントが電波を出力でき

ない状態になっており、ランプは異常(赤ランプ)を示していた。ハードウェア故障を示すログメッセージは出力されていなかったため、一時的なハングアップ状態と判断し、2台のアクセスポイントを再起動し、復旧を行った。

- ・ICT支援員が日次の機器チェックを実施することにより、機器の電源停止忘れや充電保管庫の施錠忘れを防止できた。
- ・平成24年7月月次作業のネットワーク・ログ確認時に検知した障害は、通常待機系であるはずの機器が運用系として動作する状態(スタンバイからオンライン)になっていたためであった。待機系機器は、運用系機器が停止した場合に運用系に切り替わるが、運用系機器は正常動作中であつたため、待機系機器の異常動作と判断した。稼働には問題はなかったが、無線コントローラの冗長化は、障害を未然に防ぐために有効であると確認できた。

<項目5>

障害一覧から抽出した代表的な障害事例は次のとおりである。

項目	課題	対応	原因
タブレットPC	・生徒用PCのタッチパネルが動作しない現象が発生した。	・タッチパネル・ドライバをバージョンアップし、復旧させた。以後は復旧手順書に則って、ICT支援員が対応している。	・PCに特化した原因と想定。
	・バッテリー故障やPC付属タッチペン破損などは、有償対応である。中学生が使用することを鑑み、有償対応について、検討する必要がある。	・PC破損時の有償対応および次年度の計画について、大学・中学校間にて協議中。中学生が使用する観点から補償を見直す必要がある。	・バッテリーやタッチペンは補償対象外の契約であったため。また、それらを補償対象に含める契約はコスト超過となる。
IWB	・IWBにてセンサーエラーが頻発する教室がある。	・IWB下部の反射板を掃除し、回復。 ・IWBドライバをバージョンアップした。これはIWBを高速で移動させた場合に画面のブレを抑えるバージョンである。	・IWB下部の反射板にチョーク粉が残っていたため、センサー感度が低下していた。
	・IWBとIWB用PCをHDMIケーブルで接続しているが、IWB用PCの画像をIWBへ表示できなくなった教室がある。	・現在はRGBケーブル接続により代替。IWB設置業者により調査を実施。2教室にて、HDMIケーブル破損のため交換する方向で調整中。	・HDMIケーブル破損のため。

項目	課題	対応	原因
IWB	<ul style="list-style-type: none"> 使用回数が増加するにつれ、ストッパーやレールなど、ボードの附属品が劣化する。 	<ul style="list-style-type: none"> HW業者が定期点検を行い、劣化や破損個所を調査した。対応については検討中。 	<ul style="list-style-type: none"> レール取り付けによるスライド型であるため、稼動時に劣化や破損する可能性がある。
無線LAN	<ul style="list-style-type: none"> ある教室にて複数の生徒用PCが、他のAPに接続してしまい、インターネット接続ができなくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 理科準備室の無線LANをパスワード管理にし、生徒用PCから自動接続されないようにした。 階上の教室で授業がある場合は、理科準備室の無線LANの電源をオフにすることにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題の教室の階下の理科準備室に設置されている無線LANに、生徒用PCが接続してしまったため。その無線LANに接続した場合、設定や経路が異なるため、生徒用PCからインターネットに接続できなくなる。
	<ul style="list-style-type: none"> 総合学習の時間、1・2年生がほぼ全員PCを使用した際、各クラスで5名程度が無線LANに接続できなくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 単独の36チャンネルのAPに対して、ロードバランスしないように設定変更を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> APが1台のみの教室にて、36チャンネルのBSSIDに接続するPCが初回接続の上限台数(閾値)に達していた。そのためそのAPは、もう一つの44チャンネルにロードバランスしようとしたが、近辺に44チャンネルのAPが存在しないため、接続不可に陥った。
サーバ	<ul style="list-style-type: none"> 写真や動画のデータ量増加により、校内サーバの空き容量が減少した。 	<ul style="list-style-type: none"> 3TBの外付けディスクを設置し、サーバに接続した。 	<ul style="list-style-type: none"> データ量増大に備えて1TBのサイズを用意したが、データ量の増加が大きかった。

(2) 実証テーマ②:ICT環境の導入・運用に係るコストや体制に関する課題の抽出・分析

<項目1>

【課題内容】

- ・ 現在ICT支援員を3名配置しているが、要員が十分か不足しているかを判断する必要がある。

【取組内容】

- ・ ICT支援員3名の作業は、授業支援や事前の準備・授業リハーサルを最優先としている。
- ・ 3名のうち1名をリーダーとし、支援内容やスケジュールを調整している。スケジュールは協働教育プラットフォーム(クラウド環境)上にて、教員間・ICT支援員間およびICT運用保守業者間で共有されている。
- ・ 総合的な学習の時間等、学年で一斉にICTを活用した授業を実施する場合、各学年に1名の支援員を配置している。
- ・ 教員からの要請により、1回の授業支援にて、複数のICT支援員が対応する場合がある。
例えば、1名がビデオ・写真撮影、1名がIWB・IWB用PCの操作、1名が生徒間見回り・サポートを行うなどの場合である。
- ・ 生徒用PCに故障や不具合が生じた際の対応、生徒用PCのIDの管理・更新、教員作成の資料の整理・取りまとめなど、ICT支援員がいなければ学校の管理層や情報機器担当教員などの業務に付加されると予想される業務の整理等にもあたっている。

【結果】

- ・ 協働教育プラットフォーム(クラウド環境)にてICT支援員のスケジュールを共有することにより、ICT支援員3名の稼働状況を最適化することができた。
- ・ 授業支援が増加し、他作業の遅延が発生したことがあった。各種作業(準備、不具合対応、記録など)の整理を都度実施しているが、授業支援と他作業の負荷を計測し、必要な要員数または作業量を精査していく必要がある。
- ・ 教員からの支援依頼数によっては、ICT支援員3名では不足する場合があった。最終的には教員が自立することが必要であり、そのため支援員数、支援内容(質・量)については今後検討が必要である。
- ・ 今後ICT支援員がいなくなった後に、学校が組織的にICT環境の維持管理を行うための体制作りについては、次年度の課題である。

<項目2>

【課題内容】

- ・ ICT環境を使用していくに従い、必要となるICT環境を判断する必要がある。

【取組内容】

- ・ 中学校内の共有サーバのディスクは、データ量増大に備えて1TBのサイズを用意した。空き容量を定期的に監視し、適宜データ整理を行っている。
- ・ 原則ペーパーレス運用を実施している。

【結果】

- ・ 教員・ICT支援員・生徒が作成・使用するデータは、原則共有サーバに保存している。授業の様子を撮影した動画・静止画のデータ量増大により、共有サーバのディスク空き容量が減少した。
データの要不要の選別を行い、整理を行った。ただし、今後も増加が見込まれるため、外付けハードディスクを増設する予定である。
- ・ 生徒の論文作成や美術の成果物提出のため、随時プリンタを使用する必要が出て

きた。生徒用プリンタの設置案を3案考案し、協議した。1学年2台、計6台を設置する方向で準備中である。無制限の印刷を抑止するために、PCとプリンタは常時接続可能とせず、印刷時にUSB接続する運用とした。

- ・ バッテリ接続箇所の破損により、生徒用PCの修理をPC業者に依頼したところ、有償対応となった。PC破損時の保険についてICT運用保守業者にて確認したが、全ての破損を補償に含めるとコスト超過となる。中学生が使用することを鑑み、有償対応について、検討する必要がある。
(現在、大学・中学・ICT運用保守業者にて協議・検討中。)

<項目3>

【課題内容】

- ・ 中学校の授業で生徒用PCが使用されるということに留意し、機器故障や破損に対して必要な補償を準備する必要がある。

【取組内容】

- ・ 新入生に対して、ICT機器使用方法のレクチャを行う際、PCの故障しやすい部分について注意するよう説明した。

【結果】

- ・ バッテリ接続箇所やPC付属タッチペンの破損により、生徒用PCの修理をPC業者に依頼したところ、有償対応となった。PC破損時の保険についてICT運用保守業者にて確認したが、全ての破損を補償に含めるとコスト超過となる。中学生が使用することを鑑み、有償対応について、検討する必要がある。
(現在、大学・中学・ICT運用保守業者にて協議・検討中。)

(3) 実証テーマ③:ICT利活用方策の分析

<項目1>

【課題内容】

- ・ 授業において、無理なくICT機器を利活用していく必要がある。教員・生徒にとって、ICT機器の利用が負担とならないような工夫が必要となる。

【取組内容】

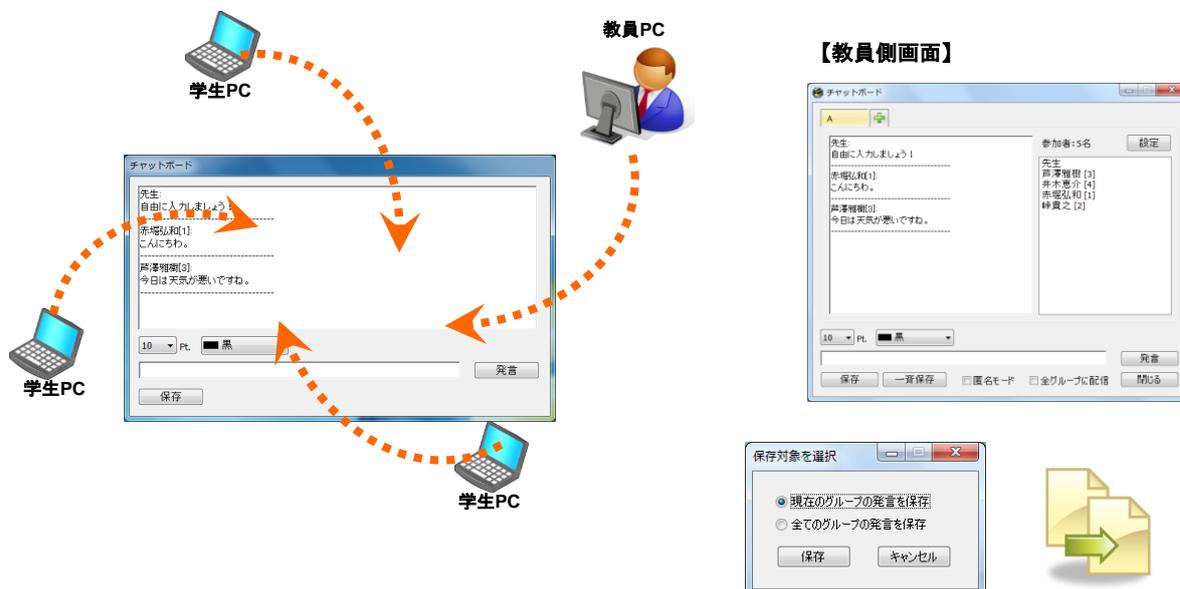
- ・ 本案件ワーキングチーム担当教員5名と、ICT運用保守業者と原則、隔週の定例会を行い、課題・予定の共有、改善の討議を行っている。
- ・ 授業内容について、教員とICT支援員は事前に打合せを行っている。初めての操作を行う場合には、ICT機器を使用して事前にリハーサルを行い、手順の精査や準備を行っている。
- ・ ICT支援員は、支援する授業について、授業開始前にIWB、IWB用PCおよび実物投影機を起動し、準備している。また、教員の指示により、ファイル配置、ソフトウェア起動などを事前に行っている。
- ・ 授業支援システム(InterCLASS)については、教員からの要望を元に機能追加の対応を実施した。

(1) 教員の要望

- ① 複数の生徒の意見を画面に表示したい。
- ② ファイル配布、プログラム起動の動作を簡便にしたい。

(2) 機能追加の内容

- ① チャット機能の追加
 - ・ グループ内の複数人で文字入力の話話が可能
 - ・ 発言内容をファイル保存することが可能



② 一斉起動、配布操作の簡易化

- ・ 配布するファイルやフォルダ、一斉に起動するプログラムの起動ショートカットやWebサイトのファビコンを、クラスエリアにドラッグ&ドロップすることで、配布・一斉起動が可能



【結果】

- ・ ICT機器の利活用については、教員とICT支援員が、事前に授業の流れや必要な作業などの認識を合わせておく必要があることを確認できた。
- ・ 授業がスムーズに開始できるよう、教員からICT支援員に対して、授業前の準備の指示を行う必要があることを確認できた。
- ・ 授業支援システムについては、授業展開へどう組み入れるのかといった利用方法について、試行している。要望のあった機能を追加し、利用頻度をあげていく予定である。生徒の意見を手軽にグルーピングする機能の要望があったが、具体的な仕様検討を次年度に実施する予定である。

<項目2>

【課題内容】

- ・ 学校や家庭から評価・協力を得られるような、ICT機器利活用を実施する必要がある。

【取組内容】

- ・ 保護者に対して、適宜中学校のICT利活用状況を紹介する。
- ・ 横浜国立大学 野中教授作成による、情報活用の実践力に関するアンケートを、PCを使用して全生徒が実施する。

【結果】

- ・ 平成24年6月のPTA役員会ならびにPTA実行委員会で、ICT環境利活用の状況を報告した。保護者からは、自分たちもICT環境を体験したり、1人1台端末を使用したりしてみたいという意見があった。
- ・ 平成24年9月の各学年保護者会において、ICT利活用授業の紹介をした。また、3

年保護者会においては、プレゼンテーションソフトを利用して、生徒が修学旅行報告を保護者に対して行った。

保護者からは、「生徒たちの活動がよくわかった。」「旅行の様子を写真で詳しくプレゼンテーションしてくれてうれしかった。」などの感想があった。

- ・ 横浜国立大学 野中教授作成による、情報活用の実践力に関するアンケートを、平成24年9月末・平成25年2月末の計2回実施した。生徒における数か月後の変化、ICT環境への順応程度などを確認した。

アンケートの結果について、代表的な内容は次のとおりである。

- 学習者用デジタル教材や他のツールを使って、表・グラフを作成できるようになった。
- 学習者用デジタル教材の画像や音声、学習履歴を利用し、学習を深めることができるようになった。
- プレゼンテーション用に図や写真入りのスライドを作成できるようになった。
- PCのカメラやデジタルカメラを使用し、写真・動画の記録・再生・編集ができるようになった。
- インターネットを使用し、必要な情報を集めることができるようになった。
- メール、画面転送・共有機能(デジタルもぞうし等)を使用し、協働学習や協働製作ができるようになった。

<項目3>

【課題内容】

- ・ 中学校の一般公開向け現行ホームページをクラウド化し、ホームページを通じ情報発信・共有を活性化させる必要がある。

【取組内容】

- ・ 現行ホームページのリプレース作業(クラウド環境への移行)を平成24年9月から開始し、11月末に完了した。
学校関係者・生徒の保護者へURL変更・IDを周知した。
- ・ 平成24年12月の公開授業の参加申込登録フォームをホームページ上に作成し、10月下旬から公開した。11月中旬にすでに定員となったため、登録フォームを停止した。登録者の入力したデータはCSVファイルにより出力し、受付および参加者の傾向を確認するために使用した。
- ・ 平成25年2月の研究発表会の公示を、ホームページにおいて実施した。また同会の参加申込登録フォームをホームページ上に作成し、平成24年12月から公開した。随時、申込数・状況を確認した。
人数制限の設定を行い、最大数を超過した場合、自動的に申込不可と画面表示するようにしている。
- ・ 教員により、ホームページの更新を行っている。入学案内やPTA向けの月予定表などの資料のアップロード、お知らせ文の更新などを実施している。

【結果】

- ・ 現行ホームページはホームページビルダーで作成されているため、スキルを持った教員以外には更新が困難である。
新ホームページは容易な操作で更新可能なため、教員による利活用を活発にするよう検討している。
- ・ 公開授業などの参加申込をインターネットにて実施することにより、校務負荷が軽減された。
(今まではFAX・電話により申込を受け付けていた。その後、職員にてデータ入力を行っていた。)
また、参加者データを集計することにより、事前準備や傾向の確認が可能となった。
(例えば、参加したい授業を申込時に参加者に記入させることにより、各授業の参

加人数を予測できた。)

【事例】

- ・ クラウド環境へ移行した一般公開向けホームページは次のとおりである。
 - ・ 一般向けと、特定者向け(ID/パスワードが必要、保護者向けなど)のページを分けている。
 - ・ 学校行事・今後の予定などを随時更新して公開している。
 - ・ 生徒の写真・動画などは、年度ごとに保護者向けの ID/パスワードを分けて、特定者向けページにて閲覧可能としている。
 - ・ 平成24年12月の公開授業について、インターネット申込を可能にした。
 - ・ 平成25年2月の研究発表会について、インターネット申込を可能にした。

1) トップ画面



- ・ 上記赤枠ボタンから、平成25年2月の研究発表会について、インターネット申込を行う。

2) 平成25年2月の研究発表会 申込フォーム

※平成24年2月に申込人数に達したため、本ページはクローズした。

■注意・個人情報保護に関する説明画面

公開授業申し込み - 横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校 (SSL) - Windows Internet Explorer

https://secure.nxc.jp/yokochu-ynu/moushikomi

横浜国立大学教育人間科学部
附属横浜中学校

ご注意

※お一人様ずつお申し込みください。
※2月8日のバッチ連絡は誤りです。大変失礼いたしました。

2月中旬頃には、定員を越える見込みです。お申込は早めをお願いいたします。なお、申込後の「受付ID」は申込数ではありません。

個人情報保護に関する誓約書 ※ご確認願います。

< 研究発表会に参加される方は、次の内容を順守していただく必要があります。>
個人情報保護法の趣旨に基づき、研究発表会における授業において撮影した横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校生徒の映像・写真・音声及び個人情報などについては、研究・研修を目的とした個人的使用に限定します。
横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校職員・生徒・保護者の承諾なく、公表・発表を行いません。

平成24年度研究発表(平成25年2月23日) 申込フォーム

以下の項目を入力して[決定]ボタンを押してください。
*印の項目は必須入力項目です。

ページが表示されました

■申込フォーム(上記画面の下部)

公開授業申し込み - 横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校 (SSL) - Windows Internet Explorer

https://secure.nxc.jp/yokochu-ynu/moushikomi

平成24年度研究発表(平成25年2月23日) 申込フォーム

以下の項目を入力して[決定]ボタンを押してください。
*印の項目は必須入力項目です。

お名前(フリガナ)*

お名前(漢字)*

所属機関(都道府県)*

所属機関名(学校名・会社名等)*

ご担当の分野(教科・課など)*

連絡先(TEL)*

連絡先(FAX)

連絡先(E-mail)* (確認用)
※入力されたメールアドレスに、ご登録内容をメールいたします。

参観希望授業
※社会、数学、保健体育、英語、国語、音楽、美術、家庭、理科から、選択して入力してください。複数選択する場合は句点区切り(、)で入力してください。

参加希望教科分科会
※国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、家庭、英語から、選択して入力してください。複数選択する場合は句点区切り(、)で入力してください。

個人情報保護法についての同意* 同意
上記<個人情報保護法について>をご確認ください。

決定

Powered by NetCommons2 The NetCommons Project

ページが表示されました

3) 平成24年12月の公開授業 申込フォーム

※平成24年11月に申込人数に達したため、本ページはクローズした。

■説明画面



横浜国立大学教育人間科学部
附属横浜中学校

フューチャースクール推進事業・学びのイノベーション事業 公開授業参加申し込み

フューチャースクール推進事業・学びのイノベーション事業公開授業への参加をお申し込みいただくこと感謝申し上げます。
恐れ入りますが「[公開授業参加申し込みフォーム](#)」(こちらをクリック)より必要事項を記入の上、お申し込みいただきますようお願い申し上げます。

〈お申し込み完了時、結果画面が表示されますので、その画面を印刷して当日お持ちください。〉

なお、お申し込みは**お一人様ずつお申し込み**いただけますよう、お願い申し上げます。

当日、受付にて、登録結果画面の用紙をご提出ください。

お手数をおかけしますが、よろしくお願いいたします。

※ 協議会、講演における録音、撮影などはご遠慮ください。

- ・ 上記赤枠ボタンから、申込フォームへ移動する。

■申込フォーム

公開授業参加申し込みフォーム

以下の項目を入力して[決定]ボタンを押してください。
印の項目は必須入力項目です。

お名前(フリガナ)*	<input type="text" value="スズキ アキラ"/>
お名前(漢字)*	<input type="text" value="鈴木 明"/>
所属機関(都道府県)*	<input type="text" value="東京都"/>
所属機関名(学校名・会社名等)*	<input type="text" value="東京中学校"/>
ご担当の分野(教科・課など)*	<input type="text" value="数学"/>
連絡先(TEL)*	<input type="text" value="09011112222"/>
連絡先(FAX)	<input type="text"/>
連絡先(E-mail)*	<input type="text" value="suzuki.akira@tokyochu.ac.jp"/> <input type="text" value="suzuki.akira@tokyochu.ac.jp"/> (確認用) <small>※入力されたメールアドレスに、ご登録内容をメールいたします。</small>
参加希望科目(5校時)	<input type="text" value="地理、国語"/> <small>※地理、数学、英語、国語から、選択して入力してください。複数選択する場合は句点区切り(、)で入力してください。</small>
参加希望科目(6校時)	<input type="text" value="英語"/> <small>※国語、英語、数学、体育、理科から、選択して入力してください。複数選択する場合は句点区切り(、)で入力してください。</small>
個人情報保護法についての同意*	<input checked="" type="checkbox"/> 同意 <small>上記「個人情報保護法について」をご確認ください。</small>

4) PTAのページ



- ・ トップ画面の「保護者の方へ」ボタンから、本ページへ移動する。
- ・ ファイルや各年度のページその他の閲覧には ID/パスワードが必要である。

(4) 実証テーマ④: 将来に向けたICT利活用推進方策の検討

<項目1>

【課題内容】

- ・ 教員のICTリテラシーを向上させるための対応を検討していく。

【取組内容】

- ・ 教員間で、教科ごとの分科会または教科横断的な全体会を定期的に行い、ICT利活用の知見、スキル、授業事例を共有することで、教員のICTリテラシー向上を促進させている。
- ・ 教員とICT支援員間で事前打合せ・ICT機器を使用したリハーサルやテストを行うことにより、利活用方法を精査・確認している。
- ・ 必要に応じて、教員向け、またはICT支援員向けの操作手順書を作成した。都度、手順書を充実化させる予定である。

(ICT支援員向けの手順書は、今後教員へ引き継がれる予定である。)

作成した手順書の概要は次のとおりである。

(1)教員向け

No.	マニュアル名	内容
1	協働教育プラットフォーム(クラウド環境)ユーザーマニュアル	協働教育プラットフォーム(クラウド環境)の操作方法、設定手順。 ページ・部品(モジュール)の作成方法、管理者権限の操作説明など。
2	ファイルの圧縮・解凍手順	Windows7におけるファイルの圧縮・解凍手順。
3	災害時無線LAN使用方法	実証テーマである「災害時におけるICT環境の利活用方策」を実証実験するための、災害時の無線LAN開放方法・操作方法。 テーマ、実証実験日の作業の流れ、無線LANの仕様、災害時用無線LANを使用するための手順など。
4	公開授業申し込み設定／登録手順	平成24年12月の公開授業の申込をインターネット上で実施した。それに関し、登録から公開授業当日までの流れ、申込フォーム設定・管理方法、申込フォーム使用方法の説明など。
5	一般公開用ホームページ説明書	旧ホームページから移行した新ホームページ(クラウド環境)の構成、操作方法、設定手順。
6	一般公開用ホームページ編集方法	一般公開用ホームページについて、教員から質問のあった操作方法の手順。

(2)ICT支援員向け

No.	マニュアル名	内容
1	サーバ設定作業手順(ユーザ登録)	年度当初に実施する、ActiveDirectoryにおけるユーザID登録・変更・削除手順。
2	新PC導入手順書	新PC購入時、PC破損時リカバリ後に実施する、生徒用PCの導入・設定手順。
3	ウィルスバスター他ドライブチェック方法	USBメモリなど、ウィルスバスターにおける他ドライブチェック操作手順。

No.	マニュアル名	内容
4	協働教育プラットフォーム(クラウド環境)管理者マニュアル	協働教育プラットフォーム(クラウド環境)における、管理者IDによる環境変更・設定変更操作手順。
5	デジタル教科書資料	デジタル教科書用クラウド環境への成果物保存方法、バックアップ・リストア方法。
6	WindowsUpdate手順	原則年2回全PCに対して実施するWindowsUpdate(OS・Officeセキュリティパッチ適用)手順。

【結果】

- ・ 教員間、または教員とICT支援員間で、お互いの知見、スキル、授業事例を共有することがICT利活用の拡大・深化に必要であることを確認できた。今後も定期的に共有していく必要がある。
- ・ 操作方法・手順は明確化し、未経験者へ正確に連携できる状況にしておく必要があることを確認できた。

<項目2>

【課題内容】

- ・ 生徒がICTリテラシーを向上させるための対応を検討していく。

【取組内容】

- ・ 新1年生には、PCの使用方法、ユーザIDによるログオン方法、共有サーバの各フォルダの使用方法について、ICT支援員によるレクチャを行った。
- ・ PCとヘッドセットを使用する場合、新規ソフトウェアを導入・使用する場合、既存ソフトウェアの使用方法など、随時ICT支援員によるレクチャを行った。
- ・ 各生徒がインターネットを閲覧する際には、教員とICT支援員が見回ること、または授業支援システムを使用しチェックすることで、学習外のページを閲覧させないようにしている。
- ・ WEBフィルタリング機能にて、有害サイトは閲覧できないようブロックしており、そのことを周知させている。
- ・ インターネットのアクセスログを監視していることを周知させている。
- ・ PCを校庭や体育館に持ち出す際、一覧に記載するよう周知している。
- ・ 授業に有効なフリーソフトを使用している。(図形描画ソフト、天体プラネタリウムソフトなど。)
- ・ 資料作成には、Microsoft PowerPointやWordを使用している。

【結果】

- ・ 生徒のICTリテラシーは向上している。ただし各生徒のスキルに差があることが確認できた。そのため、全体的に底上げする必要があるという意識で対応を行っている。今後の課題として、定期的な対応を検討する予定である。
- ・ ICT支援員作成のレクチャ用資料については、ICT支援員が都度修正し、最終化を行っている。これにより、生徒のICTリテラシー向上をスムーズに実施できるように努めている。

(以下、PC使用レクチャ用資料から抜粋)

パソコン使いかマニュアル

パソコン使用 ガイダンス

生徒様用パソコン使い方のご説明
ICT支援員



ガイダンスの流れ

- はじめに
 1. WEBの閲覧について
 2. 情報記録媒体について
 3. 準備～パソコンの取出し～
 4. パソコンの起動
 5. パソコンの取扱いについて
- 演習
 1. ユーザーIDとパスワードについて
 2. ソフトの起動とファイルの保存と終了
- パソコンの収納

準備

- 保管庫の中の電源コネクタを抜き、パソコンを取り出します。
※自宅への持ち帰りは禁止です。
※落とさないように気を付けてください。
※無理に電源コードを引っ張らないようにしてください。
※予備機は保管庫から出さないでください。



机の上に置いたら授業や説明を開始するまで開かないでください。

きちんと外れているかを確認します。

パソコンを起動します。

1. 真ん中の銀色のロックを右にスライドさせます。



2. ディスプレイを起こします。



初回ログオン

⑥ パスワードの入力をします。

ユーザー名	
古いパスワード	提示したパスワードを入力してください。
新しいパスワード	パスワード規則に則り、入力してください。
パスワードの確認入力	新しいパスワードと同じ文字を入力してください。

パスワード規則

1. **6文字**で設定。
2. **半角英数字**だけ使用できます。
3. 本人が忘れないようにする。
4. 他人に教えない。



パソコンを収納します。

パソコンを収納し、電源（ACアダプタ）をつないでください。
※きちんとつながないと充電できません。



(5) 実証テーマ⑤:災害時におけるICT環境の利活用方策と課題の抽出・分析

<項目1>

【課題内容】

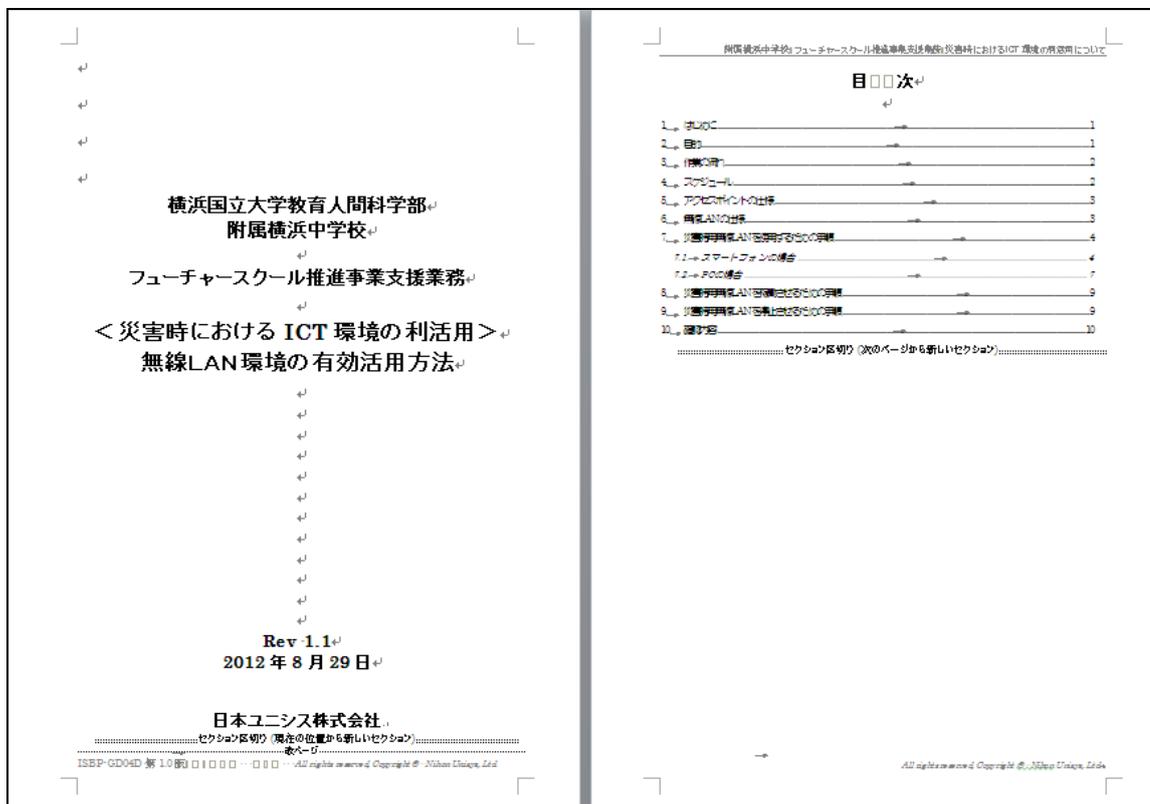
- ・ 災害時に学校のICT環境を有効に利活用する方策を確立させる必要がある。

【取組内容】

- ・ 災害発生時の避難場所となる体育館や教室からインターネットに接続することができれば、避難者の情報入手にとても有効である。
そのため、無線LANにアクセスフリーのSSIDを用意して、災害時に無線LANを使用できるようにした。(ただし中学校内LANには接続できない。)
- ・ 平成24年8月末の避難訓練の際、一時的にアクセスフリーの無線LANを、教室・体育館・中庭・校庭全てのアクセスポイントにおいて、開放した。それを使用して、スマートフォンとPCからインターネットへの接続を確認した。
(ただし、スマートフォンは2.4GHz帯のみ使用可能であるため、2.4GHz帯を使用する中庭・校庭のAPのみ使用可能。PCは5GHz帯を使用する校舎内のAPを使用可能。)
- ・ 災害時における容易な接続を可能とするため、アクセスフリーのSSIDを用意し、パスワード入力を不要にした。

【結果】

- ・ アクセスフリーのSSIDへの接続を容易にしたため、災害時における利活用をスムーズに行うことができることを確認できた。
- ・ アクセスフリーのSSIDの開放方法について、開放手順書を使用して正しく開放できることを確認できた。
(以下、手順書の表紙・目次)



- ・ 避難者へのアクセス方法の公開手順や、フリーSSIDの切替手順を非常時にどのよ

うに行っていくのかなど、運用方法の仕様検討は次年度の課題とする。

<項目2>

【課題内容】

- ・ 災害時に、学校のホームページにて、校外からのデータ更新や情報発信を可能にする必要がある。

【取組内容】

- ・ 協働教育プラットフォーム(クラウド環境)を使用することにより、校外からのデータ更新や情報発信を可能とした。
- ・ 当該クラウド環境に、暫定的な「災害情報」ページ(安否登録)を作成した。避難訓練時の無線LAN開放の際、当該クラウド環境への接続やデータ更新を実施した。(以下、災害情報ページ(安否登録)画面)

ホーム 授業日記 サイト情報 災害情報

ログイン

ログインID
パスワード

ログイン

パスワード再発行

メニュー

カウンタ

COUNTER

リンク集

検索

横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校

携帯サイト

災害時情報

災害時情報[根記事一覧]

フラット表示へ 20件

8月29日 避難訓練(0件) ict001 2012/07/25 (0票)

フラット表示へ 20件

登録フォーム

以下の項目を入力して[決定]ボタンを押してください。
*印の項目は必須入力項目です。

氏名*
学年*
組*
安否状況(本人)*
補足*

1年 2年 3年
A組 B組 C組
怪我無し 怪我あり

今の状況を簡潔に書いてください

決定

【結果】

- ・ 協働教育プラットフォーム(クラウド環境)を使用することで、教員が災害時に学校へ出勤できなくとも、中学校外からホームページを更新することができ、生徒や避難者などへの情報発信が可能になることを確認できた。
- ・ 災害時におけるクラウド環境の運用方法を検討・確定する必要がある。

(6) 実証テーマ⑥【独自1】:中高一貫連携教育における、ICT利活用方策の分析

<項目1>

【課題内容】

- ・ 中学内だけではなく関連する高校との間に、教員・生徒の必要とする情報を共有する環境が必要である。

【取組内容】

- ・ 中学・高校間で部活の交流を実施しており、情報を連携している。スケジュール調整や連絡を適宜行っている。(以下、中学・高校間の連携活動の写真)



- ・ iハーベスト発表会(横浜国立大学主催による小・中・高・大学連携による「総合的な学習の時間」を主体とした成果発表)に関する資料を両校で共有している。
- ・ 協働教育プラットフォーム(クラウド環境)の運用を実施している。
- ・ 一般公開用の現行ホームページをクラウド環境に移行した。ホームページ上で一般向けや保護者向けの情報公開を行っている。

【結果】

- ・ 情報共有・連携は実施しており、一部クラウド環境を使用している。今後は運用仕様を最適化し、より広範囲に利活用する予定である。

<項目2>

【課題内容】

- ・ 指導の継続性を向上させる環境のあり方について検討する。

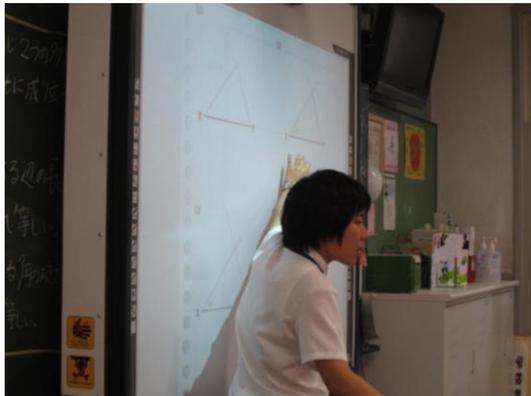
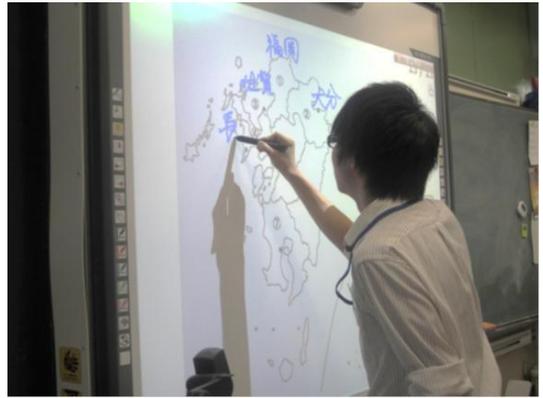
【取組内容】

- ・ 本年度は教育実習生を約60名受け入れて、教育実習を実施した。教育実習生にICT機器(IWB、PC、書画カメラ)やデジタル教科書を積極的に使用させた。
- ・ 教育実習生に対するICT機器の教育を行った。同じ教育を、ICT環境に不慣れな教員に対しても実施した。
- ・ 教育実習後、教育実習生にICT使用に関するアンケートを実施した。

【結果】

- ・ 教育実習生に対するICT機器の教育と同様の教育を、今までICT機器をあまり使用しなかった教員にも改めて実施した。そのため、その教員のICT機器使用回数が増加した。
- ・ 教育実習生に対するICT機器教育は、今までICT機器を使用しなかった教員に対する教育としても使用できる。
- ・ 教育実習生のアンケートでは、ICTについて積極的・好意的な意見が多かった。
- ・ 教育実習中にICTやデジタル教科書に触れることができる機会を設けることは、教育実習生にとっても有意義であると確認できた。

(以下、教育実習中の写真)



(7) 実証テーマ⑦【独自2】:

ICT利活用を組み込んだ言語活動の質的な充実と「リテラシー」の育成

<項目1>

【課題内容】

- ・ リテラシーの育成を基盤にタブレット型PC・IWB・実物投影機を活用した授業計画の必要性がある。年間カリキュラム等に反映させる。

【取組内容】

- ・ 平成23年度は、教員を中心としたICT機器の機能の理解と、操作スキルの習得を重視。
- ・ 生徒も同様に、操作スキルの習得をねらいとした学習活動を、無理のない範囲で実施。
- ・ 平成24年度は、ICT機器の利活用を学習カリキュラムに組み込むことで、言語活動がどのように質的な充実を図れるのか、これまでの教科等の指導のとらえ直しを実施している。
- ・ ICT機器の利活用を組み込むことで、効果的になる単元や学習活動について、教科ごとに、見直しをもった年間カリキュラムの見直しを随時実施中。

【結果】

- ・ IWB、書画カメラ、タブレットPC等で言語活動(発表・説明・討論等)を単元の中に計画的に取り入れている。
 - ①美術 作品の美しさを説明している。
 - ②理科 電気分解の様子を説明している。



- ・ リテラシー(問題解決力・学び続ける力・感じとる力・行動する力・熟考する力)の育成、コミュニケーション活動を重視(感じとる力)する授業を実施している。
 - ③国語 自分の話している姿をWebカメラで撮影、話す技能の改善点を検討する。



④国語

グループごとに、テーマに則った討論の動画を撮影し、のちにその動画をグループで観覧し、反省点などを洗い出した。
会議・討論の進め方、個々人の姿勢、テーマへのアプローチや議題の進展を客観的に確認することにより、生徒のファシリテーション(会議の手法・技術)スキルを向上することができた。

<項目2>

【課題内容】

- ・ 言語活動の質的な充実を図るコミュニケーションサブツールとしての可能性を求め、教科以外の場面でも活用し効果をあげる。

【取組内容】

- ・ 教科授業以外のシーン、具体的には学級活動や種々行事等の特別活動において、ICT利活用が、生徒間、生徒・教員間の意思疎通に、従来の人的なコミュニケーションの、補助的かつ効果的な役割を果たすよう、活動計画のとらえ直し、見直しを随時実施中。

【結果】

- ・ 情報リテラシー、情報モラル、セキュリティ等の学習も実施し意識の向上を図る。

①総合的な学習の時間

自分の調べたこと(web)の真偽や情報の不足している点を文献やインタビュー等を通して、真偽を確かめる過程で、情報モラルを学んだり、情報リテラシーの育成を育んだりしている。



②総合的な学習の時間

3年生で修学旅行の班別自主行動計画を立てる際に、班ごとに授業支援システムの1機能である「デジタルもぞうし」にて、自分の行きたい見学場所や体験したい活動などを思い思いに書き込み、班の見学コースの検討を行った。



7. 今後の展望等

平成 24 年 2 月頃から本格的な運用が開始され、生徒・教員とも ICT 機器の操作スキルが向上してきている。しかし、本校の現状を考えると、短時間で教員の入れ替わりがあり、教員の操作スキルや授業での ICT 機器の利活用方法の引き継ぎが課題のひとつになっている。また、ICT 支援員の人数や勤務時間、支援体制、ICT 支援員の教育等もこの事業を継続するにあたり、今後の重要な検証課題になる。

また、本校が育成を目指している生徒の力には、溢れる情報の中から必要な情報を選び取って変化する社会に対応できる柔軟な思考力や、国際社会を舞台に自分の考えを的確に発信できる表現力等があり、こうした力の育成には ICT の利活用が不可欠である。そのため、教員や生徒がいつでも安心して ICT 機器を利活用できる環境が望まれるが、検証 2 年目を終える現在、システム・ソフトウェアの操作性・可用性の課題が明確になってきている。この点も、今後の検証課題である。

さらに、教員・生徒ともに ICT 利活用に習熟するにつれて、学校 ICT 環境特有の課題が見受けられるようになってきている。情報共有環境の運用規則の見直し等、こうした問題への取組も、今後の検証課題である。

利活用の方針としては、以下 3 点を考えている。

今後の ICT 利活用方針

- ☞ 本校にふさわしい ICT 支援員像や持続可能な運用体制等の確立
- ☞ 教員・生徒ともに不安なく利用できる ICT 環境の構築
- ☞ 情報モラルの向上と、学校 ICT 環境の在り方の検討

来年度も、12 月の公開授業を成果発信の機会ととらえ、それを一つの目標に、ICT スキルの習得について、計画的・継続的に研修を実施していく予定である。言語活動の質的な充実を通したリテラシーの育成をねらいとする、ICT を利活用した単元構想、授業の発想に力点を置いて授業研究を推進していく。

ICT スキル習得重点事項

- ☞ 機器ベンダーによる ICT 研修を実施し、タブレット PC、IWB の基本操作を習得
- ☞ ICT 支援員の日常的かつ継続的な助力により、教員の授業構想・「発想」の具現化を支援

来年度秋には授業進行を妨げず、学習意欲、教育意欲が向上する段階まで成熟させる予定である。

授業の進行	混乱	非効率	成立	効率的
生徒、教員の意識	拒否	後ろ向き	前向き	意欲的、能動的
学習効果	学力低下	不変	学習意欲の向上 教育意欲の向上	学力向上

8. 平成24年度 報告対象期間中の日報

【4月】

- 1) 5日(木) 平成24年度ICT運用保守業者とのキックオフミーティング
- 2) 6日(金) 生徒ユーザIDの確定・登録作業開始
- 3) 6日(金) 各PCのWindowsUpdate(セキュリティパッチ適用)作業
- 4) 20日(金) 総合的な学習の時間(TOFY)にて2・3年生PC使用
- 5) 23日(月) 生徒総会資料を全生徒PCへ配布
- 6) 25日(水) ICT運用保守業者との定例週次会
- 7) 26日(木) 新入生向けタブレットPCの使用方法・ログオン方法レクチャ
- 8) 27日(金) 総合的な学習の時間(TOFY)にて2・3年生PC使用

【5月】

- 1) 2日(水) 生徒総会(全生徒PC持参・PCにて資料閲覧実施)
- 2) 11日(金) 総合的な学習の時間(TOFY)にて2・3年生PC使用
- 3) 15日(火) 故障のIWB用PC、実物投影機を図書室の機器と一次交換
- 4) 23日(水) 教育実習開始(5/23～6/7,14)
- 5) 25日(木) デジタル教科書設定 事前打合せ
- 6) 28日(月) フィンランド オール市 産業振興財団 視察
- 7) 31日(木) 宮古島市教委・市立下地中学校 視察

【6月】

- 1) 5日(水) デジタル教科書 全生徒用PCへインストール・設定(～6日まで)
- 2) 8日(金) 横浜国立大学 野中教授 ICT支援員打合せ
- 3) 1日(金) 総合的な学習の時間(TOFY)にて2・3年生PC使用
- 4) 5日(水) デジタル教科書 全生徒用PCへインストール・設定(～6日まで)
- 5) 8日(金) 横浜国立大学 野中教授とICT支援員の打合せ
- 6) 8日(金) 総合的な学習の時間(TOFY)にて2・3年生PC使用
- 7) 11日(月) 数学科研究授業(ICT環境使用)
- 8) 14日(木) JOCによるオリンピック教室(ICT環境使用)
- 9) 15日(金) 総合的な学習の時間(TOFY)にて2・3年生PC使用
- 10) 18日(月) 山本博司参議、総務省大臣官房総務課 金澤直樹課長補佐、公明新聞記者、議員秘書がICT利活用を視察・取材
- 11) 19日(火) 川崎市立高校 視察
- 12) 19日(火) デジタル教科書クラウドサーバ接続用設備 事前検証
- 13) 20日(水) 協働教育プラットフォーム(クラウド) 研修
- 14) 22日(金) 総合的な学習の時間(TOFY)にて2・3年生PC使用
- 15) 22日(金) デジタル教科書クラウドサーバ接続用設備 工事
- 16) 25日(月) 地域協議会 第1回
- 17) 26日(火) デジタル教科書 研修
- 18) 26日(火) デジタル教科書クラウドサーバ接続用設備 検証
- 19) 26日(火) 野中教授が数学科デジタル教科書の利活用を視察。
- 20) 26日(火) 高知県教育課程センターから7名が学校視察
- 21) 27日(水) 横浜国立大学新規採用職員18名が学校視察。
- 22) 28日(木) IWBのマウスポインタの誤動作について、IWB SW業者とICT運用保守業者にて現地調査実施
- 23) 29日(金) 総合的な学習の時間(TOFY)にて2・3年生PC使用

【7月】

- 1) 11日(水) 横浜国立大学 野中教授による生徒向けアンケート実施(3年生)
- 2) 11日(水) 横浜国立大学 野中教授とICT支援員の打合せ
- 3) 13日(金) ネットワーク機器ログ採取
- 4) 13日(金) デジタル教科書の外部クラウドサーバへ各PCからの接続を可能にするために、外部クラウドサーバをプロキシ例外とする設定変更
- 5) 13日(金) IWBのマウスポインタの誤動作について、IWB SW業者とICT環境運用保守業者により、IWBドライバ更新
- 6) 18日(水) 横浜国立大学 野中教授による生徒向けアンケート実施(2年生)
- 7) 20日(金) 横浜国立大学 野中教授による生徒向けアンケート実施(1年生)
- 8) 23日(月) 無線コントローラ不具合対応
- 9) 23日(月) 生徒 夏期休暇開始(～8月28日まで)
- 10) 27日(金) 授業支援システム(InterCLASSとデジタルもぞうし)の動作確認テスト

【8月】

- 1) 1・2日(水・木) 教科書会社によるデジタル教科書インストール作業
- 2) 6・7日(月・火) FS実証校(本田小学校その他)のICT支援員の集合研修・活動発表会にICT支援員が参加
- 3) 28日(火) IWB会社によるIWBの設置状態ズレ補正作業
- 4) 29日(水) 災害時のICT環境の利活用における無線LAN開放の実証実験
- 5) 30日(木) 教育実習開始(～9月12日・20日・27日まで)
- 6) 30・31日(木) 教科書会社によるデジタル教科書インストール作業(残PCのみ)

【9月】

- 1) 3日(月) 小学館視察
- 2) 5日(水) ICT運用保守業者との定例週次会
- 3) 7日(金) 日本経済新聞視察
- 4) 10日(月) 横浜国立大学 野中教授視察
- 5) 11日(火) 日本経済新聞視察
- 6) 12日(水) 朝日デジタル新聞視察
- 7) 13日(木) 授業支援システム(InterCLASS)改修内容打合せ
- 8) 14日(金) 横浜国大事務局長・施設部長視察
- 9) 19日(水) ICT運用保守業者との定例週次会
- 10) 24日(月) 第2回地域協議会
- 11) 24日(月) 第2理科室の故障AP1台を交換
- 12) 27日(木) 日立製作所視察
- 13) 28日(金) 横浜国大有旦教授・名取講師視察

【10月】

- 1) 2日(火) 横浜国大有旦教授視察
- 2) 2日(火) 朝日新聞デジタル版について朝日新聞社による生徒向けの説明実施
- 3) 3日(水) 文部科学省視察
- 4) 3日(水) ICT運用保守業者との定例週次会
- 5) 3～5日(水～金) 授業支援システム(InterCLASS)改修版の導入
- 6) 4日(木) 総務省へ中間報告書提出
- 7) 5日(金) 無線業者による無線障害対応
- 8) 11日(木) 川崎市立川崎高等学校視察
- 9) 16日(火) 愛川町視察

- 10) 17日(水) 無線業者による無線障害対応
- 11) 18日(木) サウジアラビア教育委員会視察
- 12) 18日(木) 総務省FS推進研究会出席(ICT運用保守業者傍聴)
- 13) 24日(水) 横浜国立大学 野中教授視察
- 14) 24日(水) 公開授業登録フォーム一般公開開始(～12月13日まで)
- 15) 24日(水) ICT運用保守業者との定例週次会

【11月】

- 1) 12日(月) IWB業者によるIWB・HDMIケーブル障害対応
- 2) 12日(月) 無線LAN障害の調査
- 3) 14日(水) ICT運用保守業者との定例週次会
- 4) 14日(水) 無線LAN業者による無線障害対応
- 5) 16日(金) 公開授業の参加申込登録フォームの閉鎖(定員に達したため)
- 6) 19日(月) 総務省・文部科学省 両省副大臣視察の事前打合せ
- 7) 19日(月) デジタル教科書(社会・理科)業者との打合せ
- 8) 19日(月) 破損PCの有償対応について大学側担当者と打合せ
- 9) 20日(金) 横浜国立大学教育人間科学部 22名教育実地研究で視察
- 10) 26日(月) 各PCへのWindowsUpdate(セキュリティパッチ適用)開始
(～12月3日完了。修理中PCは随時実施予定)
- 11) 26日(月) NTTコム 1名来校視察
- 12) 27日(火) 朝日新聞デジタル 1名視察
- 13) 28日(水) 内田洋行 3名来校視察
- 14) 29日(木) 日立ソリューションズ 2名視察
- 15) 30日(金) 現行ホームページのクラウド環境への移行作業完了

【12月】

- 1) 3日(月) 新一般公開用ホームページの教員向け説明会
- 2) 12日(水) ICT運用保守業者との定例週次会
- 3) 13日(木) 平成24年度研究発表会 申込フォーム 一般公開開始
- 4) 14日(金) 文科省諸島中等教育局 4名視察
- 5) 14日(金) 第2回 地域協議会
- 6) 14日(金) 無線LAN業者による無線障害調査
- 7) 19日(水) 公開授業研究会 官公庁、企業、マスコミ、教育関係者など約150名来校
- 8) 20日(木) 総務省・文科省委員 2名視察

【平成25年1月】

- 1) 10日(木) CRT検査についてICT運用保守業者と調整
- 2) 11日(金) ICT運用保守業者にて共有サーバの設定変更実施
- 3) 24日(木) ICT運用保守業者にてPC不正動作について調査・対応
- 4) 24日(木) ICT運用保守業者にて生徒用PCのプリンタドライバ導入確認
- 5) 30日(水) ICT運用保守業者との定例週次会

【平成25年2月】

- 1) 4日(月) ICT運用保守業者・無線業者にて無線LAN設定変更
- 2) 4日(月) 生徒用PCのプリンタドライバ導入日の調整
- 3) 6日(水) IWB設置業者にてIWBの設置状況の定期点検
- 4) 8日(金) 一般公開用ホームページの研究発表会申込フォームの確認・調整
- 5) 13日(水) ICT運用保守業者との定例週次会
- 6) 21日(木) 自由民主党衆議院議員・文科省(計17名) 視察

7) 23日(土) 研究発表会(見学者数:約1100名)